

Oracle Voicemail & Fax

管理者ガイド

リリース 2 (9.0.4)

2003 年 10 月

部品番号 : J07731-01

Oracle Voicemail & Fax 管理者ガイド, リリース 2 (9.0.4)

部品番号: J07731-01

原本名: Oracle Voicemail & Fax Administrator's Guide, Release 2 (9.0.4)

原本部品番号: B10722-01

原本著者: Ginger Tabora

原本協力者: Bindu Dharmavaram, Byung Choung, Indira Iyer, Duane Jensen, Jae Lee, Phil Sarin

Copyright © 1998, 2003, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

* オラクル社とは、**Oracle Corporation**（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である **Oracle Corporation**（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『**Restricted Rights**』と共に提供してください。この場合次の **Notice** が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	v
対象読者	vi
このマニュアルの構成	vi
関連ドキュメント	vi
表記規則	vii

1 概要

Oracle Voicemail & Fax の概要	1-2
Oracle Voicemail & Fax の機能	1-2
ボイス・インタフェース	1-2
FAX	1-2
Graphical User Interface (GUI) クライアント・アクセス	1-3
標準準拠アプリケーション	1-3
管理	1-3

2 Oracle Voicemail & Fax プロセス

概要	2-2
ルーティング・プロセス	2-3
ボイスメール録音プロセス	2-3
ボイスメール検索プロセス	2-5
転送プロセス	2-5
FAX 受信プロセス	2-5
リカバリ・プロセス	2-5
プロセス・マネージャ・プロセス	2-6

AQMWI プロセス	2-6
MWI サービス・プロセス	2-7
Windows サービスを使用した Oracle Voicemail & Fax プロセスの管理	2-7
Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの手動による起動または停止	2-8
Oracle Enterprise Manager を使用した Oracle Voicemail & Fax プロセスの管理	2-8
Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの作成	2-9
Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの削除	2-9
特定の Oracle Voicemail & Fax インスタンス用のパラメータの変更	2-10
Oracle Voicemail & Fax プロセス・パラメータの変更	2-10
すべての Oracle Voicemail & Fax プロセスの起動、停止または再初期化	2-10
Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの起動	2-11
Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの停止	2-12
Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの再初期化	2-12
Oracle Voicemail & Fax プロセス・パラメータ	2-12
ルーティング・プロセス	2-12
ボイスメール録音プロセス	2-17
ボイスメール検索プロセス	2-23
転送プロセス	2-28
FAX 受信プロセス	2-32
リカバリ・プロセス	2-36
MWI サービス・プロセス	2-40
AQMWI プロセス	2-43
Oracle Voicemail & Fax のログ・ファイル	2-46

3 管理およびプロビジョニング

ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーの管理	3-2
ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーの追加	3-2
ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーのパラメータの変更	3-3
ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーのパラメータ	3-3
ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーの削除	3-5
ボイスメール・ユーザー・ディレクトリの管理	3-5
複数のユーザー名のディレクトリへの入力	3-6
個々のユーザー名のディレクトリへの入力	3-7

4 エラー・メッセージ

概要	4-2
ルーティング・プロセス	4-2
ボイスメール録音プロセス	4-7
ボイスメール検索プロセス	4-18
転送プロセス	4-28
FAX 受信プロセス	4-32
MWI サービス・プロセス	4-37
AQMWI プロセス	4-38

A Oracle Voicemail & Fax アクセス制御リスト

テレフォニ・プロセスのアクセス制御リスト	A-2
UMAdminsGroup のグループ・メンバーシップ	A-3

索引

はじめに

この『Oracle Voicemail & Fax 管理者ガイド』では、Oracle Voicemail & Fax のコンポーネントおよび概念の概要を示し、実行が必要な計画、構成および管理のタスクについて説明します。

次の項目について説明します。

- [対象読者](#)
- [このマニュアルの構成](#)
- [関連ドキュメント](#)
- [表記規則](#)

対象読者

この『Oracle Voicemail & Fax 管理者ガイド』は、Oracle Voicemail & Fax の計画、構成、管理または監視を行うユーザーを対象としています。

このマニュアルの構成

このマニュアルは、次のように構成されています。

第 1 章「概要」

この章では、Oracle Voicemail & Fax システムの概要および主な機能について説明します。

第 2 章「Oracle Voicemail & Fax プロセス」

この章では、Oracle Voicemail & Fax の管理に関する情報を示します。

第 3 章「管理およびプロビジョニング」

この章では、Oracle Voicemail & Fax システムの様々なプロセスに関する情報を示します。

第 4 章「エラー・メッセージ」

この章では、Oracle Voicemail & Fax のエラー・メッセージに関する情報を示します。

付録 A「Oracle Voicemail & Fax アクセス制御リスト」

この付録では、Oracle Voicemail & Fax のアクセス制御リストに関する情報を示します。

関連ドキュメント

詳細は、次の Oracle ドキュメントを参照してください。

- Oracle Collaboration Suite のリリース・ノート
- 『Oracle Email 管理者ガイド』
- 『Oracle Email アプリケーション開発者ガイド』
- 「Oracle Email API Reference (Java Doc)」
- 『Oracle Email Migration Tool Guide』
- 『Oracle Collaboration Suite Oracle Voicemail 利用ガイド』
- 『Oracle Collaboration Suite Oracle Webmail 設定ガイド』

追加情報は、次の Oracle ドキュメントを参照してください。

- 『Oracle Enterprise Manager 管理者ガイド』
- 『Oracle9i データベース管理者ガイド』
- 『Oracle9i Application Server 管理者ガイド』
- 『Oracle9i SQL リファレンス』
- 『Oracle9i Net Services 管理者ガイド』

リリース・ノート、インストール関連ドキュメント、ホワイト・ペーパーまたはその他の関連ドキュメントは、OTN-J (Oracle Technology Network Japan) から、無償でダウンロードできます。OTN-J を使用するには、オンラインでの登録が必要です。登録は、次の Web サイトから無償で行えます。

<http://otn.oracle.co.jp/membership/>

すでに OTN-J のユーザー名およびパスワードを取得している場合は、次の URL で OTN-J Web サイトのドキュメントのセクションに直接接続できます。

<http://otn.oracle.co.jp/document/>

Request for Comments (RFC) の詳細は、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.ietf.org>

表記規則

この項では、このマニュアルの本文およびコード例で使用される表記規則について説明します。この項の内容は次のとおりです。

- [本文の表記規則](#)
- [コード例の表記規則](#)

本文の表記規則

本文では、特定の項目が一目でわかるように、次の表記規則を使用します。次の表に、その規則と使用例を示します。

規則	意味	例
太字	太字は、本文中で定義されている用語および用語集に記載されている用語を示します。	この句を指定すると、 索引構成表 が作成されます。
固定幅フォントの大文字	固定幅フォントの大文字は、システム指定の要素を示します。このような要素には、パラメータ、権限、データ型、 Recovery Manager キーワード、 SQL キーワード、 SQL*Plus またはユーティリティ・コマンド、パッケージおよびメソッドがあります。また、システム指定の列名、データベース・オブジェクト、データベース構造、ユーザー名およびロールも含まれます。	NUMBER 列に対してのみ、この句を指定できます。 BACKUP コマンドを使用して、データベースのバックアップを作成できます。 USER_TABLES データ・ディクショナリ・ビュー内の TABLE_NAME 列を問い合わせます。 DBMS_STATS.GENERATE_STATS プロシージャを使用します。
固定幅フォントの小文字	固定幅フォントの小文字は、実行可能ファイル、ファイル名、ディレクトリ名およびユーザーが指定する要素のサンプルを示します。このような要素には、コンピュータ名およびデータベース名、ネット・サービス名および接続識別子があります。また、ユーザーが指定するデータベース・オブジェクトとデータベース構造、列名、パッケージとクラス、ユーザー名とロール、プログラム・ユニットおよびパラメータ値も含まれます。 注意： プログラム要素には、大文字と小文字を組み合わせて使用するものもあります。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。	sqlplus と入力して、SQL*Plus をオープンします。 パスワードは、orapwd ファイルで指定します。 /disk1/oracle/dbs ディレクトリ内のデータ・ファイルおよび制御ファイルのバックアップを作成します。 hr.departments 表には、department_id、department_name および location_id 列があります。 QUERY_REWRITE_ENABLED 初期化パラメータを true に設定します。 oe ユーザーとして接続します。 JRepUtil クラスが次のメソッドを実装します。
固定幅フォントの小文字のイタリック	固定幅フォントの小文字のイタリックは、プレースホルダまたは変数を示します。	parallel_clause を指定できます。 Uold_release.SQL を実行します。ここで、old_release とはアップグレード前にインストールしたリリースを示します。

コード例の表記規則

コード例は、SQL、PL/SQL、SQL*Plus または他のコマンドライン文の例です。次のように固定幅フォントで表示され、通常のテキストと区別されます。

```
SELECT username FROM dba_users WHERE username = 'MIGRATE';
```

次の表に、コード例で使用される表記規則とその使用例を示します。

規則	意味	例
[]	大カッコは、カッコ内の項目を任意に選択することを表します。大カッコは、入力しないでください。	DECIMAL (<i>digits</i> [, <i>precision</i>])
{ }	中カッコは、カッコ内の項目のうち、1つが必須であることを表します。中カッコは、入力しないでください。	{ENABLE DISABLE}
	縦線は、大カッコまたは中カッコ内の複数の選択項目の区切りに使用します。項目のうちの1つを入力します。縦線は、入力しないでください。	{ENABLE DISABLE} [COMPRESS NOCOMPRESS]
...	水平の省略記号は、次のいずれかを示します。 <ul style="list-style-type: none">■ 例に直接関連しないコードの一部が省略されている。■ コードの一部を繰り返すことができる。	CREATE TABLE ... AS <i>subquery</i> ; SELECT <i>col1</i> , <i>col2</i> , ... , <i>coln</i> FROM employees;
.	垂直の省略記号は、例に直接関連しない複数の行が省略されていることを示します。	SQL> SELECT NAME FROM V\$DATAFILE; NAME ----- /fsl/dbs/tbs_01.dbf /fsl/dbs/tbs_02.dbf . . . /fsl/dbs/tbs_09.dbf 9 rows selected.
その他の記号	大カッコ、中カッコ、縦線および省略記号以外の記号は、記載されているとおりに入力する必要があります。	acctbal NUMBER(11,2); acct CONSTANT NUMBER(4) := 3;
イタリック体	イタリック体は、特定の値を指定する必要があるプレースホルダや変数を示します。	CONNECT SYSTEM/ <i>system_password</i> DB_NAME = <i>database_name</i>

規則	意味	例
大文字	大文字は、システム指定の要素を示します。これらの要素は、ユーザー定義の要素と区別するために大文字で示されます。大カッコ内にかぎり、表示されているとおりの順序および綴りで入力します。ただし、大 / 小文字が区別されないため、小文字でも入力できます。	SELECT last_name, employee_id FROM employees; SELECT * FROM USER_TABLES; DROP TABLE hr.employees;
小文字	小文字は、ユーザー指定のプログラム要素を示します。たとえば、表名、列名またはファイル名などです。 注意： プログラム要素には、大文字と小文字を組み合わせるものもあります。これらの要素は、記載されているとおりに入力してください。	SELECT last_name, employee_id FROM employees; sqlplus hr/hr CREATE USER mjjones IDENTIFIED BY ty3MU9;

1

概要

この章では、Oracle Voicemail & Fax システムの概要および主な機能について説明します。
次の項目について説明します。

- [Oracle Voicemail & Fax の概要](#)
- [Oracle Voicemail & Fax の機能](#)

Oracle Voicemail & Fax の概要

Oracle Voicemail & Fax は、信頼性が高く、高スケーラブルなボイスメールおよび FAX システムです。このシステムによって、ボイスメール・メッセージおよび FAX メッセージの集中管理された安全な格納および取出しが可能になります。

Oracle Voicemail & Fax は、ボイスメール・メッセージ用に Oracle Email メッセージ・ストアを使用し、Oracle のコア・コンピテンスを利用して、あらゆる種類の情報のアクセス、格納および管理を可能にしています。また、Oracle9i マルチスレッド・データベースのすべての機能を利用して、パラレル処理、高可用性、および何千もの同時ユーザーに対する応答時間の大幅な短縮を実現します。Oracle Voicemail & Fax は、高スケーラブルで信頼性の高い Oracle Email メッセージ・ストアを基礎として使用し、通話処理、メッセージ配信、ブラウザベースのクライアントおよび管理ユーティリティを提供します。

Oracle Voicemail & Fax の機能

Oracle Voicemail & Fax の主要コンポーネントは次のとおりです。

- [ボイス・インタフェース](#)
- [FAX](#)
- [Graphical User Interface \(GUI\) クライアント・アクセス](#)
- [標準準拠アプリケーション](#)
- [管理](#)

ボイス・インタフェース

Oracle Voicemail & Fax は、通話インタフェースを介してユーザー設定項目を変更できる、基本的な Dial Tone Multi Frequency (DTMF) ボイスメール・インタフェースを提供します。Oracle Voicemail & Fax は単一ストア・ソリューションであるため、メッセージまたはアカウント設定に対するボイス・チャンネルを介した処理は、すべてのチャンネルから参照できます。

FAX

Oracle Voicemail & Fax は、着信 FAX 機能を提供します。ユーザーの電話番号に送信された FAX は、ユーザーの受信ボックスに直接配信され、そこでメッセージの添付ファイルとして表示できます。FAX は、Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) 対応のメッセージとして格納されます。また、標準準拠クライアントまたは Web クライアントを使用して、印刷の実行やすべての電子メール・アドレスへの転送が可能です。

Graphical User Interface (GUI) クライアント・アクセス

Oracle Voicemail & Fax では、電話、Internet Mail Access Protocol (IMAP4) または Post Office Protocol (POP3) の標準準拠クライアントを含む複数のチャネル、および Web を介してボイスメールにアクセスできます。メッセージは業界標準形式（ボイスメールの場合は .wav、FAX の場合は .tif）で格納されるため、特別なプレーヤは必要ありません。そのため、ユーザーは任意のコンピュータ・システムからメッセージにアクセスでき、電子メールにアクセス可能な任意のユーザーにメッセージを転送できます。

標準準拠アプリケーション

Oracle Voicemail & Fax 電話アプリケーションは、Enterprise Computer Telephony Forum (ECTF) 標準に基づいています。総称して CT サーバーとして知られるこれらの標準は、プラットフォーム独立コンピュータ・テレフォニ (CT) アプリケーションの構築およびサポートに必要なインフラストラクチャを定義します。また、これらの標準によって、Oracle Voicemail & Fax アプリケーションを、様々なエンタープライズおよびキャリア・クラス・スイッチと簡単に統合できるようになります。

管理

Oracle Voicemail & Fax と Oracle Enterprise Manager を統合することにより管理が単純化し、Oracle 環境全体における整理統合された Web ベース管理、および既存のシステム監視インフラストラクチャへの統合が可能になります。また、Oracle Voicemail & Fax では、委任管理によって同じシステム上の複数のドメインがサポートされ、ホスティングが可能になります。

Oracle Voicemail & Fax プロセス

この章では、Oracle Voicemail & Fax システムのテレフォニ・プロセスについて説明します。
次の項目について説明します。

- [概要](#)
- [Oracle Enterprise Manager を使用した Oracle Voicemail & Fax プロセスの管理](#)
- [Oracle Voicemail & Fax プロセス・パラメータ](#)
- [Oracle Voicemail & Fax のログ・ファイル](#)

概要

Oracle Voicemail & Fax のテレフォニ・コンポーネントは、Enterprise Computer Telephony Forum (ECTF) のコンピュータ・テレフォニ・サーバー (CT サーバー) アーキテクチャに基づいていくつかのプロセスで構成されます。個々のプロセスはコールと対話し、その場でタスクを実行して、コールを別のプロセスに転送します。

テレフォニ・プロセスは次のことを行います。

- **ルーティング・プロセス**： Oracle Voicemail システムへの着信コールに応答し、録音プロセスまたは検索プロセスに送ります。
- **ボイスメール録音プロセス**： ボイスメール・メッセージを録音し、メール・ストアに格納します。
- **ボイスメール検索プロセス**： ユーザーと対話し、メール・ストアのメッセージを検索して表示します。
- **FAX 受信プロセス**： FAX メッセージを受信し、メール・ストアに格納します。
- **転送プロセス**： ユーザーがオペレータとの通話を希望した場合に、コールを管理し、転送します。
- **リカバリ・プロセス**： メール・ストアを使用できない場合に、待機中のボイスメール・メッセージおよび FAX メッセージを管理します。
- **AQMWI プロセス**： メール・サーバーからの Message Waiting Indicator (MWI) リクエストを管理します。
- **MWI サービス・プロセス**： 個々のスイッチ実装の MWI を管理します。

次の例は、コールが様々なプロセスをどのように経由するかを示しています。

- **録音**： ルーティング・プロセスは PBX からのコールを受信し、コールの詳細情報を解析します。ルーティング・プロセスがコールの種類を録音と判断すると、コールは録音プロセスに渡されます。FAX の発信音が検出された場合、コールは FAX 受信プロセスにルーティングされます。録音および FAX 受信プロセスは、Oracle Internet Directory およびメール・ストアと対話して、録音済メッセージを格納します。オペレータに転送するコールは、転送プロセスに渡されます。
- **検索**： ルーティング・プロセスは PBX からのコールを受信し、コールの詳細情報を解析します。ルーティング・プロセスがコールの種類を検索と判断すると、コールは検索プロセスに渡されます。検索プロセスは Oracle Internet Directory およびメール・ストアと対話します。返信および転送の場合はコールが録音プロセスに渡され、オペレータへの転送の場合は転送プロセスに渡されます。
- **MWI**： MWI サービス・プロセスは、特定の PBX の MWI をアクティブおよび非アクティブにします。Oracle Voicemail & Fax サブスクライバの受信ボックスに新しいボイスメール・メッセージが届くと、Advanced Queueing Message Waiting Indicator (AQMWI) プロセス用の MWI アクティブ化リクエストが生成されます。AQMWI プロセスは Oracle Internet Directory と対話し、対応する MWI サービス・プロセスを検索

して、MWI サービス・プロセスへのリクエストを中継します。逆に、サブスクライバの受信ボックスに未読のボイスメール・メッセージが存在しない場合は、AQMWI プロセスへの MWI 非アクティブ化リクエストが生成され、続いて同様の処理が行われます。

ルーティング・プロセス

CT サーバーが PBX からコールを受信すると、ルーティング・プロセスがコールに応答します。このプロセスは、PBX からコールの詳細情報を取り出します。この詳細情報は、そのコールがボイスメール・システムへの直接コールなのか、未応答またはビジーの番号から転送されたコールなのかを示します。ルーティング・プロセスは、転送されたコールの場合はボイスメール録音プロセスに送信し、直接コールの場合はボイスメール検索プロセスに送ります。コールの詳細情報を取得できない場合、ルーティング・プロセスは発信者にボイスメール録音またはボイスメール検索のいずれかを選択させます。

ルーティング・プロセスは、ワーカー・スレッド・プールを維持します。各スレッドが同時に処理できるコールは1つです。ルーティング・プロセスは、PBX のタイプおよび Oracle Voicemail & Fax の構成に基づいて、Simplified Message Desk Interface (SMDI) または Intel CT Media を介してコールの詳細を検索します。

ボイスメール録音プロセス

Oracle Voicemail & Fax ボイスメール録音プロセスは、ボイスメール・メッセージを録音し、送信します。メッセージは、通常の優先度や高い優先度を付けて送信できます。メッセージの宛先を簡単に指定できるように、録音プロセスによりユーザー・ディレクトリへのアクセスが提供されます。このディレクトリは、発信者が電話のキーパッドでユーザーの名前をダイヤルして検索できます。ボイスメール録音プロセスは、ワーカー・スレッド・プールを維持します。各スレッドが同時に処理できるコールは1つです。発信者が録音プロセスと対話するのは、次の6つの場合です。

- 通常の録音： ルーティング・プロセスは、転送されたコールを受け取ると、そのコールをボイスメール録音にルーティングし、コールの受信対象者の番号を提供します。ボイスメール録音は、受信者の情報を Oracle Internet Directory から取得します。ルーティング・プロセスは、発信者が電話を受信可能であることを確認し、受信者の応答メッセージを再生します。再生されるのは、ユーザー設定の応答メッセージ、休暇通知用の応答メッセージ、名前が録音されたシステムの応答メッセージ、または電話番号入りのシステムの応答メッセージです。応答メッセージの再生中に FAX コールの発信音が検出された場合、コールは FAX 受信プロセスにルーティングされます。発信者はメッセージを録音した上で、メッセージを編集できます。最後に、ボイスメール録音プロセスは CT サーバーと対話し、メール・ストアにボイスメールを格納します。
- 発信元不明の録音： ルーティング・プロセスが詳細情報のないコールを受信し、発信者がメッセージの録音を選択した場合、ルーティング・プロセスはボイスメール録音プロセスにこのコールを送信し、発信者に受信者を指定するよう求めます。発信者は、ユーザーの電話番号を入力するか、コール先のサイトでユーザーのディレクトリを検索できます。Oracle Internet Directory から受信者を取得すると、システムはそのユーザーの応答メッセージを再生します。

- メッセージへの返信： ユーザーが、別の Oracle Voicemail & Fax ユーザーからのボイスメールに、通話ユーザー・インタフェースを介して返信することを選択した場合、ボイスメール検索プロセスによって、コールがボイスメール録音にルーティングされます。このプロセスによって一般的なシステム応答メッセージが再生され、ユーザーはメッセージを録音し、必要に応じてこのメッセージを編集できます。メッセージの受信者は、元のメッセージの送信者です。最後に、ボイスメール録音プロセスは CT サーバーと対話し、メール・ストアにボイスメールを格納します。
- メッセージの転送： ユーザーが通話ユーザー・インタフェースを介してメッセージを転送することを選択した場合、ボイスメール検索プロセスは、そのコールをボイスメール録音プロセスにルーティングします。このプロセスによって一般的なシステム応答メッセージが再生されると、ユーザーはメッセージを録音し、メッセージの宛先を指定します。ユーザーは必要に応じてこのメッセージを編集できます。最後に、ボイスメール録音プロセスは CT サーバーと対話し、メール・ストアにボイスメールを格納します。
- 認証ユーザーの録音： 通話ユーザー・インタフェースを介してログインしている状態で、ユーザーがメッセージを作成することを選択した場合、検索プロセスによってユーザーが録音プロセスに転送されます。このプロセスによって一般的なシステム応答メッセージが再生されると、ユーザーはメッセージを録音し、メッセージの宛先を指定します。ユーザーは必要に応じてこのメッセージを編集できます。最後に、ボイスメール録音プロセスは CT サーバーと対話し、メール・ストアにボイスメールを格納します。
- 検索プロセスからの転送： 検索プロセス中のユーザーが星印 (*) を押してからログインした場合、ユーザーは録音プロセスにルーティングされ、コールは発信元不明の録音として処理されます。

ボイスメール録音プロセスは、検索可能なユーザー・ディレクトリを提供し、メッセージの宛先を簡単に指定できるようにします。発信元不明の録音および検索プロセスからの転送の場合、発信者はコール先のサイトで全ユーザーのディレクトリを検索できます。通常の録音を除くすべての場合、発信者はコール先のサイトで全ユーザーのディレクトリを検索するか、システムの全ユーザーのグローバル・ディレクトリを検索するかを選択できます。すべての場合に、発信者はディレクトリを使用せずに、受信者の電話番号を入力することもできます。

メッセージの送信中に配信の問題が生じた場合、録音プロセスによって、ファイル・システム・キューにメッセージが配置されます。リカバリ・プロセスは、メッセージの再配信を試みます。このような状況は、ネットワーク障害が起こったときや、メール・ストア・データベースが使用できない場合に発生します。

ボイスメール検索プロセス

ボイスメール検索プロセスは、ユーザーによるログイン、メッセージ検索、アカウント管理、メッセージの返信と転送、および新しいメッセージの録音を可能にします。このプロセスは、ワーカー・スレッド・プールを維持します。各スレッドが同時に処理できるコールは1つです。このプロセスに渡されるすべてのコールは、ルーティング・プロセスを経由します。

検索プロセスは、発信者に番号およびパスワードの入力を求め、Oracle Internet Directory サーバーのユーザー・オブジェクトと比較して発信者を認証します。発信者が正常に認証されると、プロセスは CT サーバーと対話し、ボイスメール・メッセージおよびその他のアカウント情報を検索します。ボイスメール検索プロセスにより、ユーザーはボイスメール・メッセージを聞いたり、メッセージを保存および削除できます。また、ユーザーは、PIN を設定して応答メッセージを録音または管理できます。ユーザーのアカウント情報は、Oracle Internet Directory に格納されます。

関連資料： 詳細は、『Oracle Collaboration Suite Oracle Voicemail 利用ガイド』を参照してください。

転送プロセス

転送プロセスは、ボイスメールの録音プロセスまたは検索プロセスとの対話中に発信者がオペレータへの転送を選択した場合に、コールを受信します。転送プロセスは、ユーザーのグループ・プロファイルでオペレータの番号を検索し、番号が存在しない場合は、プロセスのプロパティで定義されたデフォルトの番号を検索します。その後、発信者はボイスメール・システムからその番号に転送されます。応答がない場合、コールはボイスメール・システムにリダイレクトされます。

FAX 受信プロセス

FAX 受信プロセスは、FAX メッセージを受信します。このプロセスは、ワーカー・スレッド・プールを維持します。各スレッドが同時に処理できるコールは1つです。FAX コールの発信音を検出されると、すべてのコールはボイスメール録音プロセスを介して FAX 受信プロセスに渡されます。このプロセスは、FAX メッセージを受信し、CT サーバーと通信してこのメッセージを電子メール・サーバーのメール・ストアに配信します。これは、コールがボイスメール・システムにルーティングされた後に行われます。その番号の FAX コールに応答するユーザーには、FAX の発信音が聞こえます。

リカバリ・プロセス

リカバリ・プロセスは、ボイスメールの録音プロセスまたは FAX 受信プロセスで、メール・ストアとの通信エラーが発生した場合に、メッセージの再配信を試みます。このプロセスは周期的に稼働し、ファイル・システム・キューで検出されたすべてのメッセージの送信を試みます。リカバリ・プロセスが正常にメッセージを送信すると、そのメッセージはキューから削除されます。

プロセス・マネージャ・プロセス

注意： プロセス・マネージャ・プロセスは、Oracle Voicemail & Fax 管理ツールでは管理されません。

プロセス・マネージャ・プロセスは、リモート・プロセスが Oracle Voicemail & Fax の Windows ベースのすべてのプロセスを起動できるようにします。プロセス・マネージャ・プロセスは、自身を Java RMI レジストリおよび Java RMI アクティブ化デーモンに登録します。

Oracle Enterprise Manager の JSP ページなどのクライアント・プログラムは、プロセス・マネージャ・プロセスのリモート・メソッドを起動し、特定のプロセス・インスタンスを起動します。リクエストを受信すると、このサービスは、指定されたプロセス・インスタンス用に Windows レジストリでサービスを作成し、起動します。このサービスがすでにインストールされている場合は、既存のサービスを再起動します。

プロセス・マネージャ・プロセスによって管理されるプロセスは、次のとおりです。

- ルーティング・プロセス
- ボイスメール録音プロセス
- ボイスメール検索プロセス
- 転送プロセス
- リカバリ・プロセス
- FAX 受信プロセス
- MWI サービス・プロセス

注意： プロセス・マネージャ・プロセスを起動するには、あらかじめ rmiregistry および rmid が実行されている必要があります。

AQMWI プロセス

AQMWI プロセスは、MWI のアクティブ化リクエストまたは非アクティブ化リクエストを Advanced Queueing (AQ) から取り出し、これらのリクエストを Java RMI を介して MWI サービス・プロセスにルーティングします。ユーザーが新しいボイスメールを受信すると、メール・ストアは、そのユーザーの MWI をアクティブ化するリクエストを AQ に挿入します。ユーザーが最後の未読ボイスメールを読むと、メール・ストアは、そのユーザーの MWI を非アクティブ化するリクエストを AQ に挿入します。AQMWI プロセスは、AQ からリクエストを取り出し、ユーザーの電話番号を検索して、その電話番号の MWI 処理を担当する MWI サービス・プロセスを検出します。最後に、AQMWI プロセスは、Java RMI を介して MWI リクエストを適切な MWI サービス・プロセスに送信します。

MWI サービス・プロセス

MWI サービス・プロセスは、Java RMI を介して受信したリクエストへのレスポンスとして、特定の PBX の MWI をアクティブまたは非アクティブにします。このプロセスは、PBX との SMDI 接続または CT Media 接続を維持します。ボイスメール・ユーザーが使用するそれぞれの PBX には、必ず 1 つの MWI サービス・プロセスが実行されている必要があります。AQMWI プロセスは、このプロセス用の RMI リクエストを開始します。

Windows サービスを使用した Oracle Voicemail & Fax プロセスの管理

Oracle Voicemail & Fax のプロセスは、Windows サービスまたは Oracle Enterprise Manager を使用して管理できます。

Oracle Voicemail & Fax のプロセス・インスタンスは、Windows サービスとして登録されます。Oracle Voicemail & Fax のプロセス・インスタンスは、Windows サービスを使用して起動および停止できます。

Oracle Enterprise Manager または `oesctl` を使用して起動したプロセス・インスタンスには、該当するサービス名が付けられます。サービス名の形式は次のとおりです。

- `UMProcessMgrService`: プロセス管理サービス
- `UMFaxRecv_instance number`: FAX 受信アプリケーション
- `UMMWI_instance number`: MWI サービス
- `UMRecording_instance number`: ボイスメール録音アプリケーション
- `UMRecovery_instance number`: ボイスメール・リカバリ・アプリケーション
- `UMRetrieval_instance number`: ボイスメール検索アプリケーション
- `UMRouting_instance number`: ボイスメール・ルーティング・アプリケーション
- `UMTransfer_instance number`: ボイスメール転送アプリケーション

マシンの起動時にサービスが起動すると、自動サービスが実行されます。デフォルト設定が変更されていないかぎり、Oracle Voicemail & Fax アプリケーションは、起動から数分以内に、自動的にコールに応答します。場合によっては、Oracle Voicemail & Fax プロセスを手動で起動および停止する必要があります。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの手動による起動または停止

Windows サービスを使用して Oracle Voicemail & Fax のプロセス・インスタンスを起動または停止するには、次の手順を実行します。

1. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「サービス」を選択します。
2. UM で始まる名前のサービスまで、スクロール・ダウンします。
3. 起動または停止するサービスの名前を右クリックします。
4. 「開始」または「停止」を選択します。

Windows サービスはプロセスが起動されたことを示しているにもかかわらず、プロセス・インスタンスが実行されていないと思われる場合があります。この状況は、次のいずれかの理由で発生します。

- プロセス・インスタンスが実行されていたが、予期しないエラーにより停止した場合。
- プロセス・インスタンスは実行されているが、構成情報を取得するために Oracle Internet Directory サーバーへの接続を待機中である場合。この場合、ログ・ファイルは書き込まれません。プロセス・インスタンスは、Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能になってから最長で 1 分間待機した後、このサーバーへの接続を試みます。
- プロセス・インスタンスは実行されているが、CT サーバーがレベル 5 になるまで待機している場合。この場合、ログ・ファイルが %ORACLE_HOME%\um¥log の下に書き込まれます。プロセス・インスタンスは、CT サーバーがレベル 5 に達してから最長で 1 分間待機した後、接続を試みます。
- プロセス・インスタンスが初期化中で、この状態が数分間続く場合。

関連項目： 詳細は、第 4 章「エラー・メッセージ」を参照してください。

Oracle Enterprise Manager を使用した Oracle Voicemail & Fax プロセスの管理

この項では、Oracle Enterprise Manager を使用した Oracle Voicemail & Fax プロセスの作成、削除、変更、起動、停止および再初期化の方法について説明します。

注意： プロセス・マネージャ・プロセスは、Oracle Voicemail & Fax 管理ツールでは管理されません。プロセス・マネージャ・プロセスは、Windows の起動時に自動的に起動されます。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの作成

Oracle Voicemail & Fax のプロセス・インスタンスを作成するには、Oracle Enterprise Manager を使用して次の手順を実行します。

デフォルト・パラメータを使用して新規の Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. Oracle Voicemail & Fax の「Service Targets」ページに移動します。
2. Oracle Voicemail & Fax プロセスを選択します。
3. 「Create」をクリックします。デフォルト・パラメータを使用した新規の Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスが作成されます。

既存の Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスと同じパラメータ値を使用して新規の Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを作成するには、次のようにします。

1. 複製するパラメータが含まれているインスタンスを選択します。
2. 「Create Like」をクリックします。選択した Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスと同じパラメータ値を使用した、新規の Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスが作成されます。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの削除

警告： Oracle Voicemail & Fax プロセスを削除すると、テレフォニ・プロセスの一部または全部が無効になる場合があります。

注意： プロセスを削除するには、そのプロセスを停止する必要があります。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを削除するには、Oracle Enterprise Manager を使用して次の手順を実行します。

1. Oracle Voicemail & Fax の「Service Targets」ページに移動します。
2. Oracle Voicemail & Fax プロセスを選択します。
3. 削除する Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを選択します。
4. 「削除」をクリックします。

特定の Oracle Voicemail & Fax インスタンス用のパラメータの変更

注意： プロセスは、パラメータを変更するたびに再初期化する必要があります。

特定の Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンス用にパラメータを変更するには、Oracle Enterprise Manager を使用して次の手順を実行します。

1. Oracle Voicemail & Fax の「Service Targets」ページに移動します。
2. Oracle Voicemail & Fax プロセスを選択します。
3. 変更する Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを選択します。
4. 必要に応じてパラメータを変更します。
5. 「Apply」をクリックします。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・パラメータの変更

注意： プロセスは、パラメータを変更するたびに再初期化する必要があります。

Oracle Voicemail & Fax プロセスのデフォルト・パラメータを変更するには、Oracle Enterprise Manager を使用して次の手順を実行します。

1. Oracle Voicemail & Fax の「Service Targets」ページに移動します。
2. Oracle Voicemail & Fax プロセスを選択します。
3. 「Change Settings」を選択します。
4. 必要に応じてパラメータを変更します。
5. 「Apply」をクリックします。

すべての Oracle Voicemail & Fax プロセスの起動、停止または再初期化

Oracle Voicemail & Fax プロセスを起動すると、そのサービス・タイプを構成するすべてのプロセスが起動します。Oracle Voicemail & Fax プロセスが初めて起動するときに、ログ・ファイル・ディレクトリにファイルが作成されます。

Oracle Voicemail & Fax システムを停止すると、すべての Oracle Voicemail & Fax プロセスを停止するリクエストが、オペレーティング・システムに送信されます。

注意： 管理者は、サーバーのハードウェアまたはソフトウェアのアップグレードなどのメンテナンスを実行するときに、**Oracle Voicemail & Fax** システムを停止する必要があります。このようなアップグレードを行う際にはプロセスを実行することはできません。

Oracle Internet Directory プロセスを再初期化すると、プロセスの操作設定を **Oracle Voicemail & Fax** サーバーから再ロードすることが、オペレーティング・システムに通知されます。プロセスは実行を停止しないため、ユーザーは中断されることなくそのままサービスを使用できます。**Oracle Voicemail & Fax** プロセスは、パラメータが変更されるたびに再初期化し、変更を有効にする必要があります。

注意： 次の機能は、少なくとも 1 つの **Oracle Voicemail & Fax** インスタンスが作成されている場合にのみ実行できます。

すべての **Oracle Voicemail & Fax** プロセスを起動、停止または再初期化するには、**Oracle Enterprise Manager** を使用して次の手順を実行します。

1. **Oracle Voicemail & Fax** の「Service Targets」ページに移動します。
2. **Oracle Voicemail & Fax** プロセスを選択します。
3. 「開始」、「停止」または「Reinitialize」をクリックします。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの起動

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを起動するには、**Oracle Enterprise Manager** を使用して次の手順を実行します。

1. **Oracle Voicemail & Fax** の「Service Targets」ページに移動します。
2. **Oracle Voicemail & Fax** プロセスを選択します。
3. 起動する **Oracle Voicemail & Fax** プロセス・インスタンスを選択します。
4. 「開始」をクリックします。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの停止

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを停止するには、Oracle Enterprise Manager を使用して次の手順を実行します。

1. Oracle Voicemail & Fax の「Service Targets」ページに移動します。
2. Oracle Voicemail & Fax プロセスを選択します。
3. 停止する Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを選択します。
4. 「停止」をクリックします。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスの再初期化

注意： プロセスは、パラメータを変更するたびに再初期化する必要があります。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを再初期化するには、Oracle Enterprise Manager を使用して次の手順を実行します。

1. Oracle Voicemail & Fax の「Service Targets」ページに移動します。
2. Oracle Voicemail & Fax プロセスを選択します。
3. 再初期化する Oracle Voicemail & Fax プロセス・インスタンスを選択します。
4. 「Reinitialize」をクリックします。

Oracle Voicemail & Fax プロセス・パラメータ

この項では、Oracle Voicemail & Fax プロセス・パラメータについて説明します。

ルーティング・プロセス

Log Level

このパラメータは、UM プロセスによって実行されるログの種類を制御します。

表 2-1 Log Level の許容値

許容値	説明
INTERNALERROR	重大なエラーのみをレポート
ERROR	すべてのエラーをレポート

表 2-1 Log Level の許容値 (続き)

許容値	説明
WARNING	すべてのエラーおよび警告をレポート
NOTIFICATION	プロセス内の高レベルの操作フローをレポート
TRACE	すべてのデバッグ情報をレポート

デフォルト値: WARNING

Active Flag

このパラメータは、インスタンスが実行されているかどうかを示します。

許容値: True または False

デフォルト値: プロセスが起動するまで値は設定されません。

Number of Threads per Process

このパラメータは、1つの JVM 内にあるこのルーティング・プロセスのスレッド数を指定します。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 4

Root Context for UM

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある Oracle Voicemail & Fax コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、Oracle Voicemail & Fax の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Root Context for ES

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある電子メール・サーバー・コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、電子メール・サーバー固有の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Install Context for UM

このパラメータは、um_system などの UM Install Context を指定します。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Voice Retrieval Application DN

このパラメータは、コールがルーティングされるボイスメール検索アプリケーション・インスタンスの識別名を指定します。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Voice Recording Application DN

このパラメータは、録音コールのルーティング先である録音アプリケーション・インスタンスの識別名エントリを指定します。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Transfer Application DN

このパラメータは、オペレータ機能に転送されたコールのルーティング先である転送アプリケーション・インスタンスの識別名エントリを指定します。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Mail Store

Oracle Internet Directory にある、このプロセス用に管理メッセージを配信するメール・ストアの識別名です。

許容値: Oracle Internet Directory にあるメール・ストアの識別名

デフォルト値: ボイスメール・テレフォニの中間層のインストール時に選択されます。

Maximum Number of Log Files

1 つのプロセスに対して書き込まれるログ・ファイルの最大数です。最大数になるまで書き込まれ、すべてのログ・ファイルがいっぱいになると、一番古いログ・ファイルが上書きされます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 10

Maximum Log File Size (Bytes)

各ログ・ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。このサイズを超えると、別のログ・ファイルに書き込まれます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 500000

Telephony Port Map

このパラメータは、SMDI 接続を使用するルーティング・プロセスではポート・マップを指定し、システム上の各テレフォニ・ポートではそのポートの電話番号を指定します。CT Media 接続を使用するルーティング・プロセスでは、ポート・マップは無視されます。

許容値： *truncated_device_IDextension* 形式の要素を持つセミコロン区切りの文字列。*truncated_device_ID* は、最後のアンダースコアの後ろにある、CT Media 回線デバイスの名前部分を指します。たとえば、1 つのマシンに 4 つの回線デバイスがあるとしたら、

回線デバイス VMSERVER2_D240PCI_T1_pci0_13Trunk1GC1 は、番号 44001 に接続されます。

回線デバイス VMSERVER2_D240PCI_T1_pci0_13Trunk1GC2 は、番号 44002 に接続されます。

回線デバイス VMSERVER2_D240PCI_T1_pci0_13Trunk1GC3 は、番号 44003 に接続されます。

回線デバイス VMSERVER2_D240PCI_T1_pci0_13Trunk1GC4 は、番号 44004 に接続されます。

この場合、ポート・マップは次のようになります。

```
13Trunk1GC1 44001;13Trunk1GC2 44002;13Trunk1GC3 44003;13Trunk1GC4
44004
```

デフォルト値： なし

PBX integration type

このパラメータは、PBX 接続のタイプを指定します。接続のタイプが CT Media の場合、このプロセスは、CT Media を介して MWI の設定または設定解除を試みます。接続のタイプが SMDI の場合、このプロセスは、SMDI モニター・プロセスを介して MWI の設定または設定解除を試みます。

許容値： SMDI または CT Media

デフォルト値： なし

SMDI Monitor Host Name

このパラメータは、SMDI モニターを実行するマシンのホスト名を指定します。

許容値: `smdimon.acme.com` などの有効なホスト名

デフォルト値: なし

SMDI Monitor Port

このパラメータは、SMDI モニターが接続を受け入れるポート番号を指定します。

許容値: 有効な TCP ポート番号

デフォルト値: なし

SMDI Monitor Timeout Value

このパラメータは、SMDI モニターでのソケット通信のタイムアウトをミリ秒単位で指定します。

許容値: 正の整数

デフォルト値: なし

CT Server Name

このパラメータは、CT サーバーがインストールされているマシンのホスト名を指定します。名前の形式は次のとおりです。

`hostname:port_number`

ポート番号は 2019 です。

許容値: 有効なホスト名

デフォルト値: なし

CT Server Application Profile Name

このパラメータは、アプリケーションの構成情報が含まれている CT サーバー・プロファイルの名前を指定します。

アプリケーション・プロファイルには、アプリケーションに必要なシグナル処理リソースの情報が含まれています。また、アプリケーション・プロファイルは、アプリケーションが自身を CT サーバーに識別させるために使用するアプリケーション・サービス識別子 (ASI) を宣言し、アプリケーションがコールを引き渡す他のアプリケーションを識別する際に使用する ASI をドキュメント化します。

許容値: 有効な CT サーバー・プロファイル名

デフォルト値: `UMMediaServicesProfile`

CT Server Group Configuration

このパラメータは、リソースの集合を表す、CT サーバー・グループ構成の名前を指定します。

許容値： 有効な CT サーバー・グループ構成

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Application Service Name

このパラメータは、CT サーバーの ASI を指定します。また、この名前は、アプリケーションが自身を CT サーバーに登録する際に使用されます。コール・ルーティング・プロセスでは、各アプリケーションがそれぞれの ASI で識別されます。これらの ASI は、アプリケーションに関連付けられたアプリケーション・プロファイルで定義されます。

新しくインストールしたアプリケーションでシステム・コール・ルータ（SCR）や他のアプリケーションからのコールを受信する場合、あるいは他のアプリケーションにコールを引き渡す場合は、新しいアプリケーションの ASI を ASI マップ・プロファイルに追加しておく必要があります。また、必要に応じてルーティング規則プロファイルも追加します。

許容値： 有効な CT サーバーのアプリケーション・サービス名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Media Call Timeout Value

このパラメータは、このアプリケーションのリソースが構成されるのを CT Media が待機する時間を、秒単位で指定します。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： 5000

ボイスメール録音プロセス

Maximum Message Recording Duration

このパラメータは、録音済メッセージの最大長を、ミリ秒単位で指定します。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： 120000

Maximum Silence Duration

このパラメータは、メッセージの録音を停止させるまでの、連続した無音状態の長さをミリ秒単位で指定します。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： 10000

Log Level

このパラメータは、UM プロセスによって実行されるログの種類を制御します。

表 2-2 Log Level の許容値

許容値	説明
INTERNALERROR	重大なエラーのみをレポート
ERROR	すべてのエラーをレポート
WARNING	すべてのエラーおよび警告をレポート
NOTIFICATION	プロセス内の高レベルの操作フローをレポート
TRACE	すべてのデバッグ情報をレポート

デフォルト値： WARNING

Active Flag

このパラメータは、インスタンスが実行されているかどうかを示します。

許容値： True または False

デフォルト値： なし

Number of Threads per Process

このパラメータは、1 つの JVM 内にあるこの Oracle Voicemail & Fax プロセスのスレッド数 (たとえば 4) を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

Root Context for UM

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある Oracle Voicemail & Fax コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、Oracle Voicemail & Fax 固有の情報が含まれます。

許容値： Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値： なし

Root Context for ES

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある電子メール・サーバー・コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、電子メール・サーバー固有の情報が含まれます。

許容値： Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値： なし

Install Context for UM

このパラメータは、UM Install Context を指定します。

許容値： 有効な UM Install Context

デフォルト値： なし

CT Server Name

このパラメータは、CT サーバーがインストールされているマシンのホスト名を指定します。名前の形式は次のとおりです。

hostname:port_number

ポート番号は 2019 です。

許容値： 有効なホスト名

デフォルト値： なし

CT Server Application Profile Name

このパラメータは、アプリケーションの構成情報が含まれている CT サーバー・プロファイルの名前を指定します。

アプリケーション・プロファイルには、アプリケーションに必要なシグナル処理リソースの情報が含まれています。また、アプリケーション・プロファイルは、アプリケーションが自身を CT サーバーに識別させるために使用するアプリケーション・サービス識別子 (ASI) を宣言し、アプリケーションがコールを引き渡す他のアプリケーションを識別する際に使用する ASI をドキュメント化します。

許容値： 有効な CT サーバー・プロファイル名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Server Group Configuration

このパラメータは、リソースの集合を表す、CT サーバー・グループ構成の名前を指定します。

許容値： 有効な CT サーバー・グループ構成

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Application Service Name

このパラメータは、CT サーバーの ASI を指定します。また、この名前は、アプリケーションが自身を CT サーバーに登録する際に使用されます。コール・ルーティング・プロセスでは、各アプリケーションがそれぞれの ASI で識別されます。これらの ASI は、アプリケーションに関連付けられたアプリケーション・プロファイルで定義されます。

新しくインストールしたアプリケーションでシステム・コール・ルータ (SCR) や他のアプリケーションからのコールを受信する場合、あるいは他のアプリケーションにコールを引き

渡す場合は、新しいアプリケーションの ASI を ASI マップ・プロファイルに追加しておく必要があります。また、必要に応じてルーティング規則プロファイルも追加します。

許容値： 有効な CT サーバーのアプリケーション・サービス名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Media Call Timeout Value

このパラメータは、このアプリケーションのリソースが構成されるのを CT Media が待機する時間を、秒単位で指定します。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： 5000

Message Coder Type

このパラメータは、ボイスメール・メッセージのオーディオ・コードのタイプを指定します。

許容値： 有効なオーディオ・コードのタイプ

デフォルト値： v_Linear8Bit_64k

Greeting Coder Type

このパラメータは、応答メッセージおよび録音された名前に対するオーディオ・コードのタイプを指定します。有効なオーディオ・コードのタイプは、使用する Intel カードによって定義されます。

許容値： 有効なオーディオ・コードのタイプ

デフォルト値： v_Linear8Bit_64k

Mail Box Minimum Length

このパラメータは、単一サイトで数字の入力を簡略化するために使用されます。この数値は、アプリケーションでユーザーのメールボックス番号が解決されるために、ユーザーは最低何桁の数字を入力すればよいかを指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

Mail Box Maximum Length

このパラメータは、メールボックスの番号に使用できる最大桁数を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

International Number Prefix List

このパラメータは、PBX の番号と国際電話番号の間のマッピングを定義します。このマッピングは、セミコロンで区切られたサブマッピングのリストです。各サブマッピングは、次の形式に従います。

international_prefix PBX_prefix

ここで *international_prefix* は、*PBX_prefix* で始まる PBX の番号に追加される一連の数字です。接頭辞のリストが 1650506;1650607 である場合、番号 60000 が 16505060000 にマップされ、70000 が 16506070000 にマップされます。

許容値: セミコロンで区切られた一連の数字

デフォルト値: なし

Prefix to be Added to the PBX Number

このパラメータは、国際形式の電話番号を作成するために、PBX を介してアプリケーションに送信される電話番号に追加する接頭辞を指定します。

許容値: 一連の数字

デフォルト値: 1

Length of the Number Sent by the PBX

このパラメータは、PBX から Oracle Voicemail & Fax アプリケーションに送信される番号の桁数を指定します。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 10

Directory Name for Stored Queued Messages

このパラメータは、これから配信される未配信のメッセージを格納する、CT サーバー上のディレクトリを指定します。

許容値: ORACLE_HOME¥vm1_queue などのファイル・システム・ディレクトリのパス

デフォルト値: なし

Fax Receiving Application DN

このパラメータは、FAX コールがルーティングされた FAX 受信アプリケーション・インスタンスの識別名エントリを指定します。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Transfer Application DN

このパラメータは、オペレータに転送されたコールのルーティング先である転送アプリケーション・インスタンスの識別名エントリを指定します。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Full Path Name of UM Log Directory

このパラメータは、ログ・ファイルが書き込まれるディレクトリを指定します。

許容値: ファイル・システム・ディレクトリのパス名

デフォルト値:

UNIX の場合: \$ORACLE_HOME/um/log

Windows の場合: %ORACLE_HOME%\um\log

Site DN To Be Used For Directory Searches

このパラメータは、このプロセスの対象となるサイトの全ユーザーが含まれる DN を指定します。発信者がサイト固有のディレクトリ検索を選択した場合、システムはこの DN に含まれるユーザーのみを検索します。このパラメータが設定されていない場合、すべての検索はグローバル検索になります。

許容値: サブツリーにある Oracle Internet Directory の有効な識別名 cn=UMContainer, cn=Products, cn=oraclecontext

デフォルト値: なし

Maximum Size of Result Set For Directory Searches

このパラメータは、発信者に示されるディレクトリ検索結果の最大数を指定します。発信者が行うディレクトリ検索の結果が最大数より多い場合、システムは、検索条件を絞り込むよう発信者に求めます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 10

Default Domain Name

このパラメータはオプションで、システム上の全ユーザーの電子メール・ドメイン名を指定します。LDAP サーバーが停止した際、このパラメータが設定されていれば、システムによってアドレス `international_phone_number@default_domain_name` にメッセージが送信されます。LDAP サーバーの停止中にメッセージを配信できるようにするには、このプロパティを設定する必要があります。このプロパティを設定できるのは、システム上の全ユーザーが同じ電子メール・ドメインに存在する場合だけです。

許容値: 有効な電子メール・ドメイン

デフォルト値: なし

Mail Store

Oracle Internet Directory にある、このプロセス用に管理メッセージを配信するメール・ストアの識別名です。

許容値: Oracle Internet Directory にあるメール・ストアの識別名

デフォルト値: ボイスメール・テレフォニの中間層のインストール時に選択されます。

Maximum Number of Log Files

1つのプロセスに対して書き込まれるログ・ファイルの最大数です。最大数になるまで書き込まれ、すべてのログ・ファイルがいっぱいになると、一番古いログ・ファイルが上書きされます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 10

Maximum Log File Size (Bytes)

各ログ・ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。このサイズを超えると、別のログ・ファイルに書き込まれます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 500000

ボイスメール検索プロセス

Maximum Greeting Recording Duration

このパラメータは、録音済応答メッセージの最大長を、ミリ秒単位で指定します。

許容値: 一連の数字

デフォルト値: 30000

Maximum Silence Duration

このパラメータは、応答メッセージの録音を停止させるまでの、連続した無音状態の長さをミリ秒単位で指定します。

許容値: 一連の数字

デフォルト値: 10000

Log Level

このパラメータは、UM プロセスによって実行されるログの種類を制御します。

表 2-3 Log Level の許容値

許容値	説明
INTERNALERROR	重大なエラーのみをレポート
ERROR	すべてのエラーをレポート
WARNING	すべてのエラーおよび警告をレポート
NOTIFICATION	プロセス内の高レベルの操作フローをレポート
TRACE	すべてのデバッグ情報をレポート

デフォルト値： WARNING

Active Flag

このパラメータは、インスタンスが実行されているかどうかを示します。

許容値： True または False

デフォルト値： なし

Number of Threads per Process

このパラメータは、1 つの JVM 内にあるこの Oracle Voicemail & Fax プロセスのスレッド数を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 4

Root Context for UM

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある Oracle Voicemail & Fax コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、Oracle Voicemail & Fax の情報が含まれます。

許容値： Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値： なし

Root Context for ES

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある電子メール・サーバー・コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、電子メール・サーバー固有の情報が含まれます。

許容値： Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値： なし

Install Context for UM

このパラメータは、UM Install Context を指定します。

許容値： 有効な UM Install Context

デフォルト値： なし

CT Server Name

このパラメータは、CT サーバーがインストールされているマシンのホスト名を指定します。名前の形式は次のとおりです。

hostname:port_number

ポート番号は 2019 です。

許容値： 有効なホスト名

デフォルト値： なし

CT Server Application Profile Name

このパラメータは、アプリケーションの構成情報が含まれている CT サーバー・プロファイルの名前を指定します。

アプリケーション・プロファイルには、アプリケーションに必要なシグナル処理リソースの情報が含まれています。また、アプリケーション・プロファイルは、アプリケーションが自身を CT サーバーに識別させるために使用するアプリケーション・サービス識別子 (ASI) を宣言し、アプリケーションがコールを引き渡す他のアプリケーションを識別する際に使用する ASI をドキュメント化します。

許容値： 有効な CT サーバー・プロファイル名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Server Group Configuration

このパラメータは、リソースの集合を表す、CT サーバー・グループ構成の名前を指定します。

許容値： 有効な CT サーバー・グループ構成

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Application Service Name

このパラメータは、CT サーバーの ASI を指定します。また、この名前は、アプリケーションが自身を CT サーバーに登録する際に使用されます。コール・ルーティング・プロセスでは、各アプリケーションがそれぞれの ASI で識別されます。これらの ASI は、アプリケーションに関連付けられたアプリケーション・プロファイルで定義されます。

新しくインストールしたアプリケーションでシステム・コール・ルータ (SCR) や他のアプリケーションからのコールを受信する場合、あるいは他のアプリケーションにコールを引き

渡す場合は、新しいアプリケーションの ASI を ASI マップ・プロファイルに追加しておく必要があります。また、必要に応じてルーティング規則プロファイルも追加します。

許容値： 有効な CT サーバーのアプリケーション・サービス名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Media Call Timeout Value

このパラメータは、このアプリケーションのリソースが構成されるのを CT Media が待機する時間を、秒単位で指定します。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： 5000

Message Coder Type

このパラメータは、ボイスメール・メッセージのオーディオ・コードのタイプを指定します。

許容値： 有効なオーディオ・コードのタイプ

デフォルト値： v_Linear8Bit_64k

Greeting Coder Type

このパラメータは、応答メッセージおよび録音された名前に対するオーディオ・コードのタイプを指定します。

許容値： 有効なオーディオ・コードのタイプ

デフォルト値： v_Linear8Bit_64k

Mail Box Minimum Length

このパラメータは、単一サイトで数字の入力を簡略化するために使用されます。この数値は、アプリケーションでユーザーのメールボックス番号が解決されるために、ユーザーは最低何桁の数字を入力すればよいかを指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

Mail Box Maximum Length

このパラメータは、メールボックスの番号に使用できる最大桁数を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

International Number Prefix List

このパラメータは、PBX の番号と国際電話番号の間のマッピングを定義します。このマッピングは、セミコロンで区切られたサブマッピングのリストです。各サブマッピングは、次の形式に従います。

international_prefix PBX_prefix

ここで *international_prefix* は、*PBX_prefix* で始まる PBX の番号に追加される一連の数字です。接頭辞のリストが 1650506;1650607 である場合、番号 60000 が 16505060000 にマップされ、70000 が 16506070000 にマップされます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

Prefix to Be Added to the PBX Number

このパラメータは、国際形式の電話番号を作成するために、PBX を介してアプリケーションに送信される電話番号に追加する接頭辞を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 1

Length of the Number Sent by the PBX

このパラメータは、PBX が送信する番号の桁数を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 10

Voice Recording Application DN

このパラメータは、録音コールのルーティング先である録音アプリケーション・インスタンスの識別名エントリを指定します。

許容値： Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値： なし

Transfer Application DN

このパラメータは、オペレータ機能に転送されたコールのルーティング先である転送アプリケーション・インスタンスの識別名エントリを指定します。

許容値： Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値： なし

Full Path Name of UM Log Directory

このパラメータは、ログ・ファイルが書き込まれるディレクトリを指定します。

許容値: ファイル・システム・ディレクトリのパス名

デフォルト値:

UNIX の場合: \$ORACLE_HOME/um/log

Windows の場合: %ORACLE_HOME%\um\log

Mail Store

Oracle Internet Directory にある、このプロセス用に管理メッセージを配信するメール・ストアの識別名です。

許容値: Oracle Internet Directory にあるメール・ストアの識別名

デフォルト値: ボイスメール・テレフォニの中間層のインストール時に選択されます。

Maximum Number of Log Files

1 つのプロセスに対して書き込まれるログ・ファイルの最大数です。最大数になるまで書き込まれ、すべてのログ・ファイルがいっぱいになると、一番古いログ・ファイルが上書きされます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 10

Maximum Log File Size (Bytes)

各ログ・ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。このサイズを超えると、別のログ・ファイルに書き込まれます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 500000

転送プロセス

Log Level

このパラメータは、UM プロセスによって実行されるログの種類を制御します。

表 2-4 Log Level の許容値

許容値	説明
INTERNALERROR	重大なエラーのみをレポート
ERROR	すべてのエラーをレポート
WARNING	すべてのエラーおよび警告をレポート

表 2-4 Log Level の許容値 (続き)

許容値	説明
NOTIFICATION	プロセス内の高レベルの操作フローをレポート
TRACE	すべてのデバッグ情報をレポート

デフォルト値: WARNING

Active Flag

このパラメータは、インスタンスが実行されているかどうかを示します。

許容値: True または False

デフォルト値: なし

Number of Threads per Process

このパラメータは、1 つの JVM 内にあるこの Oracle Voicemail & Fax プロセスのスレッド数を指定します。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 4

Root Context for UM

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある Oracle Voicemail & Fax コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、Oracle Voicemail & Fax 固有の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Root Context for ES

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある電子メール・サーバー・コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、電子メール・サーバー固有の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Install Context for UM

このパラメータは、UM Install Context を指定します。

許容値: 有効な UM Install Context

デフォルト値: なし

CT Server Name

このパラメータは、CT サーバーがインストールされているマシンのホスト名を指定します。名前の形式は次のとおりです。

hostname:port_number

ポート番号は 2019 です。

許容値： 有効なホスト名

デフォルト値： なし

CT Server Application Profile Name

このパラメータは、アプリケーションの構成情報が含まれている CT サーバー・プロファイルの名前を指定します。

アプリケーション・プロファイルには、アプリケーションに必要なシグナル処理リソースの情報が含まれています。また、アプリケーション・プロファイルは、アプリケーションが自身を CT サーバーに識別させるために使用するアプリケーション・サービス識別子 (ASI) を宣言し、アプリケーションがコールを引き渡す他のアプリケーションを識別する際に使用する ASI をドキュメント化します。

許容値： 有効な CT サーバー・プロファイル名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Server Group Configuration

このパラメータは、リソースの集合を表す、CT サーバー・グループ構成の名前を指定します。

許容値： 有効な CT サーバー・グループ構成

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Application Service Name

このパラメータは、CT サーバーの ASI を指定します。また、この名前は、アプリケーションが自身を CT サーバーに登録する際に使用されます。コール・ルーティング・プロセスでは、各アプリケーションがそれぞれの ASI で識別されます。これらの ASI は、アプリケーションに関連付けられたアプリケーション・プロファイルで定義されます。

新しくインストールしたアプリケーションでシステム・コール・ルータ (SCR) や他のアプリケーションからのコールを受信する場合、あるいは他のアプリケーションにコールを引き渡す場合は、新しいアプリケーションの ASI を ASI マップ・プロファイルに追加しておく必要があります。また、必要に応じてルーティング規則プロファイルも追加します。

許容値： 有効な CT サーバーのアプリケーション・サービス名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Media Call Timeout Value

このパラメータは、このアプリケーションのリソースが構成されるのを CT Media が待機する時間を、秒単位で指定します。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： 5000

Dialing Number For Transfer

ユーザーがボイスメールからオペレータへの転送を選択した場合にコールがルーティングされる、PBX ダイアルが可能な電話番号です。ユーザーは、ユーザー設定項目で個々の番号を設定できます。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： なし

Full Path Name of UM Log Directory

このパラメータは、ログ・ファイルが書き込まれるディレクトリを指定します。

許容値： ファイル・システム・ディレクトリのパス名

デフォルト値：

UNIX の場合： \$ORACLE_HOME/um/log

Windows の場合： %ORACLE_HOME%\um\log

Mail Store

Oracle Internet Directory にある、このプロセス用に管理メッセージを配信するメール・ストアの識別名です。

許容値： Oracle Internet Directory にあるメール・ストアの識別名

デフォルト値： ボイスメール・テレフォニの中間層のインストール時に選択されます。

Maximum Number of Log Files

1 つのプロセスに対して書き込まれるログ・ファイルの最大数です。最大数になるまで書き込まれ、すべてのログ・ファイルがいっぱいになると、一番古いログ・ファイルが上書きされます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 10

Maximum Log File Size (Bytes)

各ログ・ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。このサイズを超えると、別のログ・ファイルに書き込まれます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 500000

FAX 受信プロセス

Log Level

このパラメータは、UM プロセスによって実行されるログの種類を制御します。

表 2-5 Log Level の許容値

許容値	説明
INTERNALERROR	重大なエラーのみをレポート
ERROR	すべてのエラーをレポート
WARNING	すべてのエラーおよび警告をレポート
NOTIFICATION	プロセス内の高レベルの操作フローをレポート
TRACE	すべてのデバッグ情報をレポート

デフォルト値： WARNING

Active Flag

このパラメータは、インスタンスが実行されているかどうかを示します。

許容値： True または False

デフォルト値： なし

Number of Threads per Process

このパラメータは、1 つの JVM 内にあるこの Oracle Voicemail & Fax プロセスのスレッド数を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 4

Root Context for UM

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある Oracle Voicemail & Fax コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、Oracle Voicemail & Fax 固有の情報が含まれます。

許容値： Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値： なし

Root Context for ES

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある電子メール・サーバー・コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、電子メール・サーバー固有の情報が含まれます。

許容値： Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値： なし

Install Context for UM

このパラメータは、UM Install Context を指定します。

許容値： 有効な UM Install Context

デフォルト値： なし

CT Server Name

このパラメータは、CT サーバーがインストールされているマシンのホスト名を指定します。名前の形式は次のとおりです。

hostname:port_number

ポート番号は 2019 です。

許容値： 有効なホスト名

デフォルト値： なし

CT Server Application Profile Name

このパラメータは、アプリケーションの構成情報が含まれている CT サーバー・プロファイルの名前を指定します。

アプリケーション・プロファイルには、アプリケーションに必要なシグナル処理リソースの情報が含まれています。また、アプリケーション・プロファイルは、アプリケーションが自身を CT サーバーに識別させるために使用するアプリケーション・サービス識別子 (ASI) を宣言し、アプリケーションがコールを引き渡す他のアプリケーションを識別する際に使用する ASI をドキュメント化します。

許容値： 有効な CT サーバー・プロファイル名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Server Group Configuration

このパラメータは、リソースの集合を表す、CT サーバー・グループ構成の名前を指定します。

許容値： 有効な CT サーバー・グループ構成

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Application Service Name

このパラメータは、CT サーバーの ASI を指定します。また、この名前は、アプリケーションが自身を CT サーバーに登録する際に使用されます。コール・ルーティング・プロセスでは、各アプリケーションがそれぞれの ASI で識別されます。これらの ASI は、アプリケーションに関連付けられたアプリケーション・プロファイルで定義されます。

新しくインストールしたアプリケーションでシステム・コール・ルータ (SCR) や他のアプリケーションからのコールを受信する場合、あるいは他のアプリケーションにコールを引き渡す場合は、新しいアプリケーションの ASI を ASI マップ・プロファイルに追加しておく必要があります。また、必要に応じてルーティング規則プロファイルも追加します。

許容値： 有効な CT サーバーのアプリケーション・サービス名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Media Call Timeout Value

このパラメータは、このアプリケーションのリソースが構成されるのを CT Media が待機する時間を、秒単位で指定します。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： 5000

Mail Box Minimum Length

このパラメータは、単一サイトで数字の入力を簡略化するために使用されます。この数値は、アプリケーションでユーザーのメールボックス番号が解決されるために、ユーザーは最低何桁の数字を入力すればよいかを指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

Mail Box Maximum Length

このパラメータは、メールボックスの番号に使用できる最大桁数を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

International Number Prefix List

このパラメータは、PBX の番号と国際電話番号の間のマッピングを定義します。このマッピングは、セミコロンで区切られたサブマッピングのリストです。各サブマッピングは、次の形式に従います。

international_prefix PBX_prefix

ここで *international_prefix* は、*PBX_prefix* で始まる PBX の番号に追加される一連の数字です。接頭辞のリストが 1650506;1650607 である場合、番号 60000 が 16505060000 にマップされ、70000 が 16506070000 にマップされます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： なし

Prefix to Be Added to the PBX Number

このパラメータは、国際形式の電話番号を作成するために、PBX を介してアプリケーションに送信される電話番号に追加する接頭辞を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 1

Length of the Number Sent by the PBX

このパラメータは、PBX が送信する番号の桁数を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 10

Directory Name for Stored Queued Messages

このパラメータは、これから配信される未配信のメッセージを格納するディレクトリを指定します。

許容値： ORACLE_HOME¥vm1_queue などのファイル・システム・ディレクトリのパス

デフォルト値： なし

Full Path Name of UM Log Directory

このパラメータは、ログ・ファイルが書き込まれるディレクトリを指定します。

許容値： ファイル・システム・ディレクトリのパス名

デフォルト値：

UNIX の場合： \$ORACLE_HOME/um/log

Windows の場合： %ORACLE_HOME%¥um¥log

Default Domain Name

このパラメータはオプションで、システム上の全ユーザーの電子メール・ドメイン名を指定します。LDAP サーバーが停止した際、このパラメータが設定されていれば、システムによってアドレス `international_phone_number@default_domain_name` にメッセージが送信されます。LDAP サーバーの停止中にメッセージを配信できるようにするには、このプロパティを設定する必要があります。このプロパティを設定できるのは、システム上の全ユーザーが同じ電子メール・ドメインに存在する場合だけです。

許容値: 有効な電子メール・ドメイン

デフォルト値: なし

Mail Store

Oracle Internet Directory にある、このプロセス用に管理メッセージを配信するメール・ストアの識別名です。

許容値: Oracle Internet Directory にあるメール・ストアの識別名

デフォルト値: ボイスメール・テレフォニの中間層のインストール時に選択されます。

Maximum Number of Log Files

1 つのプロセスに対して書き込まれるログ・ファイルの最大数です。最大数になるまで書き込まれ、すべてのログ・ファイルがいっぱいになると、一番古いログ・ファイルが上書きされます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 10

Maximum Log File Size (Bytes)

各ログ・ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。このサイズを超えると、別のログ・ファイルに書き込まれます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 500000

リカバリ・プロセス

Log Level

このパラメータは、UM プロセスによって実行されるログの種類を制御します。

表 2-6 Log Level の許容値

許容値	説明
INTERNALERROR	重大なエラーのみをレポート
ERROR	すべてのエラーをレポート

表 2-6 Log Level の許容値 (続き)

許容値	説明
WARNING	すべてのエラーおよび警告をレポート
NOTIFICATION	プロセス内の高レベルの操作フローをレポート
TRACE	すべてのデバッグ情報をレポート

デフォルト値: WARNING

Active Flag

このパラメータは、インスタンスが実行されているかどうかを示します。

許容値: True または False

デフォルト値: なし

Number of Threads per Process

このパラメータは、1つの JVM 内にあるこの Oracle Voicemail & Fax プロセスのスレッド数を指定します。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 4

Root Context for UM

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある Oracle Voicemail & Fax コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、Oracle Voicemail & Fax 固有の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Root Context for ES

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある電子メール・サーバー・コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、電子メール・サーバー固有の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Install Context for UM

このパラメータは、UM Install Context を指定します。

許容値: 有効な UM Install Context

デフォルト値: なし

CT Server Name

このパラメータは、CT サーバーがインストールされているマシンのホスト名を指定します。名前の形式は次のとおりです。

hostname:port_number

ポート番号は 2019 です。

許容値： 有効なホスト名

デフォルト値： なし

CT Server Application Profile Name

このパラメータは、アプリケーションの構成情報が含まれている CT サーバー・プロファイルの名前を指定します。

アプリケーション・プロファイルには、アプリケーションに必要なシグナル処理リソースの情報が含まれています。また、アプリケーション・プロファイルは、アプリケーションが自身を CT サーバーに識別させるために使用するアプリケーション・サービス識別子 (ASI) を宣言し、アプリケーションがコールを引き渡す他のアプリケーションを識別する際に使用する ASI をドキュメント化します。

許容値： 有効な CT サーバー・プロファイル名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Server Group Configuration

このパラメータは、リソースの集合を表す、CT サーバー・グループ構成の名前を指定します。

許容値： 有効な CT サーバー・グループ構成

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Application Service Name

このパラメータは、CT サーバーの ASI を指定します。また、この名前は、アプリケーションが自身を CT サーバーに登録する際に使用されます。コール・ルーティング・プロセスでは、各アプリケーションがそれぞれの ASI で識別されます。これらの ASI は、アプリケーションに関連付けられたアプリケーション・プロファイルで定義されます。

新しくインストールしたアプリケーションでシステム・コール・ルータ (SCR) や他のアプリケーションからのコールを受信する場合、あるいは他のアプリケーションにコールを引き渡す場合は、新しいアプリケーションの ASI を ASI マップ・プロファイルに追加しておく必要があります。また、必要に応じてルーティング規則プロファイルも追加します。

許容値： 有効な CT サーバーのアプリケーション・サービス名

デフォルト値： UMMediaServicesProfile

CT Media Call Timeout Value

このパラメータは、このアプリケーションのリソースが構成されるのを CT Media が待機する時間を、秒単位で指定します。

許容値： 一連の数字

デフォルト値： 5000

Full Path Name of UM Log Directory

このパラメータは、ログ・ファイルが書き込まれるディレクトリを指定します。

許容値： ファイル・システム・ディレクトリのパス名

デフォルト値：

UNIX の場合： `$ORACLE_HOME/um/log`

Windows の場合： `%ORACLE_HOME%\um\log`

List of MailStore DB Service Names

このパラメータは、リカバリ・キューにあるメッセージの送信先である、メール・ストアのサービス名のリストを指定します。リカバリ・キューにあるすべてのメッセージは、このリストに含まれるいずれかのメール・ストアに送信されます。1つのメール・ストアが使用できない場合、メッセージは別のメール・ストアを介してリカバリされます。

許容値： セミコロンで区切られたサービス名のリスト

デフォルト値： なし

Queue Monitoring Interval in Seconds

このパラメータは、リカバリ・キューのポーリングの間でリカバリ・プロセスが待機する時間を、秒単位で指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 900

Maximum Number of Log Files

1つのプロセスに対して書き込まれるログ・ファイルの最大数です。最大数になるまで書き込まれ、すべてのログ・ファイルがいっぱいになると、一番古いログ・ファイルが上書きされます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 10

Maximum Log File Size (Bytes)

各ログ・ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。このサイズを超えると、別のログ・ファイルに書き込まれます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 500000

MWI サービス・プロセス

Log Level

このパラメータは、UM プロセスによって実行されるログの種類を制御します。

表 2-7 Log Level の許容値

許容値	説明
INTERNALERROR	重大なエラーのみをレポート
ERROR	すべてのエラーをレポート
WARNING	すべてのエラーおよび警告をレポート
NOTIFICATION	プロセス内の高レベルの操作フローをレポート
TRACE	すべてのデバッグ情報をレポート

デフォルト値： WARNING

Set of International Phone Numbers

このパラメータは、このプロセスが MWI のアクティブ化または非アクティブ化を制御する一連の電話番号を設定します。

許容値： セミコロンで区切られた国際電話番号のサブセットのリスト。電話番号のサブセットは、一連の電話番号およびワイルドカードであるアスタリスク文字です。たとえば、1650506****;1650507**** のようになります。

デフォルト値： なし

RMI URL

このパラメータは、MWI サービスの RMI URL を指定します。MWI サービスは、*service_name* という名前で、RMI サービスとして登録されます。ポート番号が指定されている場合、MWI サービスは、そのポートで RMI レジストリに登録されます。ポート番号が指定されていない場合は、デフォルトのポートが使用されます。他のプロセスは、RMI URL 全体を使用し、RMI を介してこの MWI サービスに接続します。

許容値： RMI に適切な形式の URL

デフォルト値： なし

PBX integration type

このパラメータは、PBX 接続のタイプを指定します。接続のタイプが CT Media の場合、このプロセスは、CT Media を介して MWI の設定または設定解除を試みます。接続のタイプが SMDI の場合、このプロセスは、SMDI モニター・プロセスを介して MWI の設定または設定解除を試みます。

許容値: SMDI または CT Media

デフォルト値: なし

SMDI Monitor Host Name

このパラメータは、SMDI モニターを実行するマシンのホスト名を指定します。

許容値: `smdimon.acme.com` などの有効なホスト名

デフォルト値: なし

SMDI Monitor Port

このパラメータは、SMDI モニターが接続を受け入れるポート番号を指定します。

許容値: 有効な TCP ポート番号

デフォルト値: なし

SMDI Monitor Timeout Value

このパラメータは、SMDI モニターでのソケット通信のタイムアウトをミリ秒単位で指定します。

許容値: 正の整数

デフォルト値: なし

MWI Phone Number Suffix Size for SMDI

このパラメータは、電話番号のうち SMDI モニターに渡される桁数を示します。接尾辞のサイズが 5 の場合、電話番号の右から 5 桁が使用され、残りは破棄されます。SMDI MWI の接頭辞が定義されている場合、この接頭辞がこれらの 5 桁の前に付加されます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: なし

MWI Phone Number Prefix for CT Media

このパラメータは、CT Media サービスに渡される前に、電話番号の前に付加される一連の番号を指定します。

許容値: 一連の数字

デフォルト値: なし

CT Media MWI Provider Name

このパラメータは、MWI セッション・サービスをホスティングする CT サーバーの、プロバイダ文字列を指定します。

許容値: 次の形式の IT Media プロバイダ文字列

profilename@server:port

デフォルト値: なし

CT Media MWI Service Name

このパラメータは、MWI セッション・サービスの名前を指定します。

許容値: CT Media セッション・サービスの有効な名前

デフォルト値: MWI サービス

MWI Phone Number Suffix Size for CT Media

電話番号のうち CT Media サービスに渡される桁数を示します。接尾辞のサイズが 5 の場合、電話番号の右から 5 桁が使用され、残りは破棄されます。CT Media MWI の接頭辞が定義されている場合、この接頭辞がこれらの 5 桁の前に付加されます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: なし

MWI Phone Number Prefix for CT Media

CT Media サービスに渡される前に、電話番号の前に付加される一連の番号を指定します。

許容値: 一連の数字

デフォルト値: なし

Full Path Name of UM Log Directory

このパラメータは、ログ・ファイルが書き込まれるディレクトリを指定します。

許容値: ファイル・システム・ディレクトリのパス名

デフォルト値:

UNIX の場合: `$ORACLE_HOME/um/log`

Windows の場合: `%ORACLE_HOME%\um\log`

Mail Store

Oracle Internet Directory にある、このプロセス用に管理メッセージを配信するメール・ストアの識別名です。

許容値: Oracle Internet Directory にあるメール・ストアの識別名

デフォルト値: ボイスメール・テレフォニの中間層のインストール時に選択されます。

Maximum Number of Log Files

1つのプロセスに対して書き込まれるログ・ファイルの最大数です。最大数になるまで書き込まれ、すべてのログ・ファイルがいっぱいになると、一番古いログ・ファイルが上書きされます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 10

Maximum Log File Size (Bytes)

各ログ・ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。このサイズを超えると、別のログ・ファイルに書き込まれます。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 500000

AQMWI プロセス

Log Level

このパラメータは、UM プロセスによって実行されるログの種類を制御します。

表 2-8 Log Level の許容値

許容値	説明
INTERNALERROR	重大なエラーのみをレポート
ERROR	すべてのエラーをレポート
WARNING	すべてのエラーおよび警告をレポート
NOTIFICATION	プロセス内の高レベルの操作フローをレポート
TRACE	すべてのデバッグ情報をレポート

デフォルト値： WARNING

Number of Threads

このパラメータは、AQ を待機し、MWI リクエストを処理するスレッド数を指定します。

許容値： 正の整数

デフォルト値： 1

AQ name

このパラメータは、MWI リクエストが作成される AQ の名前を指定します。

許容値: MWI_Q などの Oracle Advanced Queuing の有効な名前

デフォルト値: なし

User ID for connecting to the database

このパラメータは、データベースへの接続に使用するユーザー ID を指定します。

許容値: 有効な Oracle ユーザー ID

デフォルト値: なし

Password for connecting to the database

このパラメータは、データベースへの接続に使用するパスワードを指定します。

許容値: 有効な Oracle ユーザー・パスワード

デフォルト値: なし

Install Root Context

このパラメータは、Oracle Internet Directory にあるこのインストール用のコンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、Oracle Voicemail & Fax インストール固有の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Root Context for UM

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある Oracle Voicemail & Fax コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、Oracle Voicemail & Fax 固有の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Root Context for ES

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある電子メール・サーバー・コンテナの識別名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、電子メール・サーバー固有の情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Process Root Context

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある電子メール・サーバー・コンテナのドメイン名を指定します。このドメイン名のサブツリーには、すべてのプロセスの構成情報が含まれます。

許容値: Oracle Internet Directory の有効な識別名

デフォルト値: なし

Full Path Name of UM Log Directory

このパラメータは、ログ・ファイルが書き込まれるディレクトリを指定します。

許容値: ファイル・システム・ディレクトリのパス名

デフォルト値:

UNIX の場合: \$ORACLE_HOME/um/log

Windows の場合: %ORACLE_HOME%\um\log

Mail Store

このパラメータは、Oracle Internet Directory にある、このプロセスが処理する MWI サービスの対象となるユーザーのメール・ストアの識別名を指定します。また、このメール・ストアによって、このプロセスの管理メッセージが配信されます。

許容値: Oracle Internet Directory にあるメール・ストアの識別名

デフォルト値: なし

Maximum Number of Log Files

1 つのプロセスに対して書き込まれるログ・ファイルの最大数です。最大数になるまで書き込まれ、すべてのログ・ファイルがいっぱいになると、一番古いログ・ファイルが上書きされます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 10

Maximum Log File Size (Bytes)

各ログ・ファイルの最大サイズをバイト単位で指定します。このサイズを超えると、別のログ・ファイルに書き込まれます。

許容値: 正の整数

デフォルト値: 500000

Oracle Voicemail & Fax のログ・ファイル

次の表は、Oracle Voicemail & Fax のログ・ファイルの位置を示したものです。

表 2-9 ログ・ファイルの位置

プロセス名	Windows	UNIX
ルーティング・プロセス	%ORACLE_HOME%\um\log\%RoutingProcess	N/A
ボイスメール録音プロセス	%ORACLE_HOME%\um\log\%RecordingProcess	N/A
ボイスメール検索プロセス	%ORACLE_HOME%\um\log\%RetreivalProcess	N/A
転送プロセス	%ORACLE_HOME%\um\log\%TransferProcess	N/A
FAX 受信プロセス	%ORACLE_HOME%\um\log\%FaxInProcess	N/A
リカバリ・プロセス	%ORACLE_HOME%\um\log\%MsgRecoveryProcess	N/A
MWI サービス・プロセス	%ORACLE_HOME%\um\log\%MWIServiceProcess	N/A
AQMWI プロセス	%ORACLE_HOME%\um\log\%AQMWIProcess	\$ORACLE_HOME/um/log/AQMWIProcess

管理およびプロビジョニング

この章では、Oracle Voicemail & Fax の管理方法について説明します。

次の項目について説明します。

- [ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーの管理](#)
- [ボイスメール・ユーザー・ディレクトリの管理](#)

ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーの管理

管理者は、Oracle Webmail のインタフェースを使用して、ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーの追加、削除、変更などの様々なユーザー管理タスクを実行できます。

「Overview」タブでは、異なる中間層ホストにインストールされているコンポーネントを参照できます。これらのコンポーネントを管理するには、ホストのリンクをクリックします。これによって Oracle Enterprise Manager にリダイレクトされます。

Oracle Voicemail & Fax の管理タスクを実行する場合、管理者は次の URL に移動する必要があります。

`http://machine name:port/um/traffic_cop`

ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーの追加

注意： ユーザーがボイスメールおよび FAX を使用するためには、そのユーザーが電子メールについてプロビジョニングの対象である必要があります。

ボイスメール・ユーザーまたは FAX ユーザーを追加するには、次の手順を実行します。

1. Oracle Webmail を使用して、「管理」ページに移動します。
2. 「ユーザー」→「ボイスメール/FAX ユーザー管理」→「ユーザーの追加」を選択します。
3. インストールを選択します。
4. 特定のドメイン上の全ユーザーのリストを取得するには、ドメインを選択して「メール・ユーザーの取得」をクリックします。特定のドメイン上の特定のユーザーを検索するには、ドメインを選択して「メール・ユーザーの検索」をクリックします。
5. ユーザーを選択します。
6. 「ボイスメール/FAX を使用可能にする」をクリックします。そのユーザーがすでに有効になっている場合は、エラー・メッセージが表示されます。
7. 該当するフィールドに、次の情報を入力します。
 - Fax In Allowed
 - Phone Access Allowed
 - Web Access Allowed
 - Telephone Number
 - VPIM Mail
 - VPIM Text Name

関連項目： パラメータの定義は、「[ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーのパラメータ](#)」を参照してください。

8. 「Enable」をクリックします。

ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーのパラメータの変更

ボイスメール・ユーザーまたは FAX ユーザーのパラメータを変更するには、次の手順を実行します。

1. Oracle Webmail を使用して、「管理」ページに移動します。
2. 「ユーザー」→「ボイスメール/FAX ユーザー管理」→「ユーザーの変更」を選択します。
3. ユーザーが所属するグループ・プロファイルを選択します。
4. 「ボイスメール/FAX の取得」をクリックしてユーザーのリストから選択するか、「メール・ユーザーの検索」をクリックし、特定のユーザーの電話番号または電子メール・アドレスを使用してユーザーを検索します。
5. ユーザーを選択して「Edit」をクリックします。
6. 必要に応じてパラメータを変更します。
7. 「変更」をクリックします。

ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーのパラメータ

この項では、ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーのパラメータについて説明します。

Group Profile

このパラメータは、選択したボイスメール・ユーザーが所属するグループを指定します。グループ・プロファイルは電子メール・ドメインと似ていますが、ローカル PBX 設定に基づいて作成されており、言語設定および転送番号などの機能をサポートする点が異なります。1 つの電子メール・ドメインは、1 つ以上のグループ・プロファイルと関連付けることができます。たとえば、電子メール・ドメイン `acme.com` には、`us.acme.com` や `uk.acme.com` などのグループ・プロファイルを定義できます。

管理者は、既存のグループから選択するか、ユーザーのプロビジョニング用に作成されたサブグループ名を入力できます。

Fax In Allowed

このパラメータは、ユーザーが受信ボックスで FAX を受信できるようにします。着信 FAX 専用です。

許容値: Yes または No

デフォルト値: Yes

Phone Access Allowed

このパラメータは、ユーザーがボイスメール・アプリケーションを使用してメッセージを聞くことができるようにします。

許容値: Yes または No

デフォルト値: Yes

Web Access Allowed

このパラメータは、ユーザーが Webmail を使用してメッセージを参照できるようにします。

許容値: Yes または No

デフォルト値: Yes

Telephone Number

このパラメータは、Oracle Voicemail & Fax ユーザーの電話番号を示します。応答メッセージが存在しない場合にボイスメール・アプリケーションが再生する標準の応答メッセージにはこの番号が含まれるため、このパラメータは必ず設定する必要があります。この値は、基になるユーザー入力の電話番号と同じにする必要があります。電話番号が変更された場合、その電話番号に対応する Voice Profile for Internet Mail (VPIM) 番号の国番号以外の部分も、変更する必要があります。

Voicemail Password

このパラメータは、ボイスメール・アカウントへのアクセスに使用する、数字によるパスワードです。数字のパスワードに使用できる文字数は、Webmail のインタフェース上にヒントとして表示されます。

VPIM Mail

このパラメータは、このユーザーへのボイスメールが送信されるアドレスです。システムは、VPIM Mail アドレスに送信されたメッセージをユーザーの電子メール・アカウントにリダイレクトする、電子メールの別名を作成します。VPIM Mail アドレスは、次の構成要素で構成されます。

- 国際電話番号
- 電子メール・ドメイン

これらの構成要素は、アットマーク (@) で区切られます。国際電話番号はユーザーの完全な電話番号で、国番号、市外局番および電話番号が含まれます。たとえば、ユーザーがアメリカ合衆国（国番号 1）にいる場合、電話番号が 6505067000 であれば、このユーザーの国

際電話番号は 16505067000 になります。電子メール・ドメインは、ユーザーの電子メール・アドレスのドメインにする必要があります。たとえば、このユーザーの電子メール・アドレスが joe.user@oracle.com の場合、ドメインは oracle.com にする必要があります。このユーザーの VPIM Mail アドレスは、16505067000@oracle.com になります。

VPIM Text Name

このパラメータは、送信者のアドレスを表すオプションの値です。

Extended Absence Status

このパラメータは管理者によって設定されるもので、別のユーザーのボイスメールにメッセージが録音されることを防ぎます。このパラメータのデフォルト値は False です。

ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザーの削除

ボイスメール・ユーザーまたは FAX ユーザーを削除するには、次の手順を実行します。

1. Webmail インタフェースを使用して、「管理」ページに移動します。
2. 「ユーザー」→「ボイスメール/FAX ユーザー管理」→「ユーザーの削除」を選択します。
3. ユーザーが所属するグループ・プロファイルを選択します。
4. 「ボイスメール/FAX の取得」をクリックしてユーザーのリストから選択するか、「ボイスメール/FAX ユーザーの検索」をクリックし、特定のユーザーの電話番号または電子メール・アドレスを使用してユーザーを検索します。
5. 削除するユーザーを選択します。
6. 「削除」をクリックします。

ボイスメール・ユーザー・ディレクトリの管理

Oracle Voicemail & Fax の特長は、電話のキーパッドでユーザーの名前をダイヤルしてユーザー検索を行える、電話ベースのディレクトリにあります。この機能を使用するには、ユーザー名をディレクトリに入力するスクリプトを管理者が実行する必要があります。このタスクは、ユーザーごとに実行する必要があります。ユーザー名は、一括して、あるいは個々にディレクトリに入力できます。

ユーザーのディレクトリ・エントリは、次の順序で連結されます。

- 姓
- 名
- ミドルネーム

この情報は、ディレクトリに格納されているユーザーの基本情報から集められます。英数字以外のすべての文字は削除され、通常の米国の電話のマッピングに合った桁数に変換されます。

次の表は、電話キーのマッピングを示したものです。

表 3-1 電話キーのマッピング

文字	電話キー
ABC	2
DEF	3
GHI	4
JKL	5
MNO	6
PRS	7
TUV	8
WXY	9

注意： このリリースでは、ディレクトリ作成に使用できる GUI 画面はありません。

複数のユーザー名のディレクトリへの入力

複数のユーザー名をディレクトリに入力するには、中間層で次の手順を実行します。

1. Oracle Internet Directory 全体の LDIF ファイルを生成します。
2. LDIF ファイルを中間層のマシンにコピーします。
3. 中間層で次のコマンドを実行します。

UNIX の場合：

```
$ORACLE_HOME/um/scripts/bulkmakedirectory.sh directory.ldif modify.txt
```

Windows の場合：

```
%ORACLE_HOME%\um\scripts\bulkmakedirectory.bat directory.ldif modify.txt
```

4. 次の `ldapmodify` を使用してディレクトリを更新します。

```
ldapmodify -h ldap_server -p ldap_port_number -D privileged_bind_DN  
-w bind_password -f modify.txt
```

個々のユーザー名のディレクトリへの入力

ユーザー名を個々にディレクトリに入力するには、次の手順を実行します。

1. ディレクトリに入力するユーザーの、完全な国際電話番号のすべてを含む `numbers.txt` ファイルを作成します。
2. 次のコマンドを実行します。

UNIX の場合：

```
$ORACLE_HOME/um/scripts/makedirectory.pl ldap_server ldap_port  
privileged_bind_dn bind_password numbers.txt
```

Windows の場合：

```
%ORACLE_HOME%\um\scripts\makedirectory.pl ldap_server ldap_port  
privileged_bind_dn bind_password numbers.txt
```

エラー・メッセージ

この章では、コンポーネント固有のエラーを示します。次の項目について説明します。

- 概要
- ルーティング・プロセス
- ボイスメール録音プロセス
- ボイスメール検索プロセス
- 転送プロセス
- FAX 受信プロセス
- MWI サービス・プロセス
- AQMWI プロセス

概要

エラー・メッセージは、Oracle Voicemail & Fax のあらゆる部分で表示されます。これらのエラー・メッセージは、ユーザーに対してはエンド・ユーザー・インタフェースに、管理者に対しては管理ツールとプロセス・ログに表示されます。

複数のエラーが表示される場合もあります。エラー・メッセージのリストは、エラー・スタックと呼ばれます。スタックの一番下にあるエラーは、通常、エラーの原因を示します。

注意： エラー・スタックには、Oracle Voicemail & Fax で使用される他の Oracle 製品のエラー・メッセージが含まれる場合があります。これらの追加エラーが表示された場合は、指定された製品のドキュメントを参照してください。

ルーティング・プロセス

Error: Can't communicate with Oracle Internet Directory

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Unable to establish Oracle Internet Directory connection

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory while trying to lookup user - Retrying

原因： Oracle Internet Directory が停止しているか、アクセス不可です。

処置： ありません。アプリケーションが自動的に接続を再試行します。

Error: Naming exception encountered while trying to lookup user

原因： Oracle Voicemail & Fax が、Oracle Internet Directory エントリを持たないユーザー、または不正な Oracle Internet Directory エントリを持つユーザーへのコールに応答していません。

処置： このユーザーが有効なユーザーである場合は、ユーザーの VPIM ユーザー・オブジェクトの VPIM メール・アドレスが正しいことを確認してください。このユーザーがシステム上に存在しない場合は、このユーザーへのコールを Oracle Voicemail & Fax に転送しないように、PBX を構成してください。

Error: No queueing location defined in Oracle Internet Directory

原因: アプリケーションがメッセージのキューを試みっていますが、メッセージ・キューの位置が Oracle Internet Directory で定義されていません。

処置: Oracle Internet Directory の該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで、メッセージ・キューの位置を設定してください。

Error: Unexpected I/O error

原因: メッセージをリカバリ・キューに出力する際にエラーが発生しました。

処置: キュー・ディレクトリのディスク領域および権限を確認してください。

Error: Cannot send message: queueing

原因: メール・ストア・データベースが停止中またはアクセス不可であるか、メッセージの送信に別の問題があります。

処置: リカバリ・アプリケーションが実行されていることを確認してください。データベースが再びアクセス可能になると、このアプリケーションによってメッセージが送信されます。データベースを確認してください。

Error: Error retrieving coder type from Oracle Internet Directory

原因: Oracle Internet Directory のユーザー・オブジェクトまたは応答メッセージ・オブジェクトに格納されているコード・タイプの形式が不正です。変更された可能性があります。

処置: コード・タイプの形式を修正し、デフォルトのコード・タイプが有効なタイプになるようにしてください。

Error: Fatal error: Can't create prompt table

原因: デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列の形式が不完全です。

処置: ローカライズ・メッセージ記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Can't create menu table

原因: デフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の形式が不完全です。

処置: メニュー項目バインディング記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Unexpected Naming Exception

原因： デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列、またはデフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の検索中に、Oracle Internet Directory エラーが発生しました。

処置： デフォルト・メニュー・オブジェクトおよびデフォルト・プロンプト・オブジェクトが、Oracle Internet Directory にあるインストール・コンテナの直接の子として Oracle Internet Directory に存在することを確認してください。両方のオブジェクトのデフォルト属性は、True に設定する必要があります。

Error: Unexpected exception

原因： CT サーバーが停止している可能性があります。

処置： CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Error refreshing

原因： リフレッシュするプロセス・インスタンスの現行の構成が無効です。プロセス・インスタンスが最後に起動してから行われた設定が正しくありません。

処置： Oracle Internet Directory のプロセス・インスタンスの設定を修正してください。

Error: Error in retrieving the signal. Current value = + signals + Event = + sdev

原因： IT Media または CT Media の API エラーです。

処置： ディスク領域を確認し、システムをリブートしてください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Error: Fax tone detected - this is a fax call. Cannot continue processing this call

原因： 詳細を入手できないコールの FAX 発信音が検出されました。

処置： コールの詳細を入手できることを確認してください。また、CT Media での FAX 発信音の設定が正しいことを確認してください。

Error: PBXConnection is null

原因： PBX 接続のタイプが不明であるか、認識されていません。あるいは、SMDI 接続の SMDI モニターのホスト、ポートまたはタイムアウトのプロパティが不明です。

処置： PBX 接続に関連するすべての必須プロパティを、該当する Oracle Internet Directory のプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで修正してください。

Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因： CT サーバーが停止している可能性があります。

処置： CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Poorly formatted integer parameter

原因: 整形式の XML 文字列に、整数として解析できない整数パラメータ値があります。

処置: ログ・ファイルを調べて問題の原因である XML 文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Parse exception

原因: ローカライズされたメッセージ記述文字列の形式が正しくありません。

処置: ログ・ファイルを調べて不正な文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Unexpected SAX Exception

原因: 予期しないエラーです。

処置: ログを調べて解析中の XML 文字列を突き止め、正しい形式の XML 文字列にしてください。

Internal Error: Unknown exception caught in + thisClassName +.run()

原因: 不明なエラーです。

処置: 問題が解決されない場合は、システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Reinitialization failed

原因: 不明なエラーの発生後にアプリケーションを再初期化しようとして失敗しました。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName

原因: 不明なエラーが発生した後で再初期化に失敗したため、このアプリケーション・スレッドが停止しています。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closed

原因: アプリケーションがスレッド固有のクリーン・アップを試みましたが、不明なエラーが発生した後で初期化に失敗したため、停止しています。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Message file + messageFile + does not exist

原因: アプリケーション・エラー状態が発生しました。

処置: マシンを再起動し、ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Internal Error: Needed parameter settings are missing

原因： プロセスの起動に必要な、Oracle Internet Directory のプロセスまたはインスタンスの設定が不明です。

処置： アプリケーションに必要な、Oracle Internet Directory のすべてのプロパティが、該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで設定されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected exception

原因： IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置： IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: Item handler does not exist for + itemTriggered.getName() + in + menuName

原因： 内部アプリケーション・コーディングのエラーです。

処置： メニュー項目バインディング構成文字列を編集し、ハンドラが不明なメニュー項目を無効にしてください。

Internal Error: Unexpected MediaBindException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因： コールを中継アプリケーションにリリースする際に問題が発生しました。中継アプリケーションが実行されていないか、十分なスレッドが実行されていません。

処置： 中継アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected MediaConfigException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因： コールを中継アプリケーションに転送するためのグループの再構成で問題が発生しました。UMMediaServicesProfile が正しく構成されていない可能性があります。

処置： UMMediaServicesProfile を確認してください。

Internal Error: MediaResourceException encountered

原因： メッセージの再生やシグナルの検出などのリソース操作の実行中に、予期しない問題が発生しました。

処置： エラー・コードがログに記録されている場合は、CT Media のドキュメントを参照してエラーの内容を確認してください。すべてのサウンド・ファイルがインストールされていることを確認してください。ディスク領域が使用可能であることを確認してください。これらの処置を行っても問題が解決されない場合は、マシンを再起動してください。

Internal Error: Unexpected MediaBindException when releasing to service + mbex

原因： コールを録音アプリケーションまたは検索アプリケーションにリリースする際に問題が発生しました。録音アプリケーションまたは検索アプリケーションが実行されていないか、十分なスレッドが実行されていません。

処置： 録音アプリケーションまたは検索アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected MediaConfigException when releasing to service

原因： 録音アプリケーションまたは検索アプリケーションに転送するためにグループを再構成しているときに問題が発生しました。UMMediaServicesProfile が正しく構成されていない可能性があります。

処置： UMMediaServicesProfile を確認してください。

Internal Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因： IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置： IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: I/O Exception shouldn't ever happen here

原因： 起こりえないエラーです。

処置： 問題をレポートしてください。

ボイスメール録音プロセス

Error: Unable to establish Oracle Internet Directory connection

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Can't communicate with Oracle Internet Directory

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory while trying to lookup user - Retrying

原因： Oracle Internet Directory が停止しているか、アクセス不可です。

処置： ありません。アプリケーションが自動的に接続を再試行します。

Error: Naming exception encountered while trying to lookup user

原因: Oracle Voicemail & Fax が、Oracle Internet Directory エントリを持たないユーザー、または不正な Oracle Internet Directory エントリを持つユーザーへのコールに応答していません。

処置: このユーザーがシステム上に存在する場合は、ユーザーの VPIM ユーザー・オブジェクトの VPIM メール・アドレスが正しいことを確認してください。このユーザーがシステム上に存在しない場合は、このユーザーへのコールを Oracle Voicemail & Fax に転送しないように、PBX を構成してください。

Error: No queueing location defined in Oracle Internet Directory

原因: アプリケーションがメッセージのキューを試みていますが、メッセージ・キューの位置が Oracle Internet Directory で定義されていません。

処置: Oracle Internet Directory の該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで、メッセージ・キューの位置を設定してください。

Error: Unexpected I/O error

原因: メッセージをリカバリ・キューに出力する際にエラーが発生しました。

処置: キュー・ディレクトリのディスク領域および権限を確認してください。

Error: Cannot send message: queueing

原因: メール・ストア・データベースが停止中またはアクセス不可であるか、メッセージの送信に別の問題があります。

処置: リカバリ・アプリケーションが実行されていることを確認してください。データベースが再びアクセス可能になると、このアプリケーションによってメッセージが送信されます。データベースを確認してください。

Error: Error retrieving coder type from Oracle Internet Directory

原因: Oracle Internet Directory のユーザー・オブジェクトまたは応答メッセージ・オブジェクトに格納されているコーデ・タイプの形式が不正です。変更された可能性があります。

処置: コーデ・タイプの形式を修正し、デフォルトのコーデ・タイプが有効なタイプになるようにしてください。

Error: Fatal error: Cannot create prompt table

原因: デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列の形式が不完全です。

処置: ローカライズ・メッセージ記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Cannot create menu table

原因: デフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の形式が不完全です。

処置: メニュー項目バインディング記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Unexpected Naming Exception

原因: デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列、またはデフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の検索中に、Oracle Internet Directory エラーが発生しました。

処置: デフォルト・メニュー・オブジェクトおよびデフォルト・プロンプト・オブジェクトが、Oracle Internet Directory に存在することを確認してください。両方のオブジェクトのデフォルト属性は、True に設定する必要があります。

Error: Unexpected exception

原因: CT サーバーが停止している可能性があります。

処置: CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Error refreshing

原因: リフレッシュするプロセス・インスタンスの現行の構成が無効です。プロセス・インスタンスが最後に起動してから行われた設定が正しくありません。

処置: Oracle Internet Directory のプロセス・インスタンスの設定を修正してください。

Error: Error in retrieving the signal. Current value = + signals + Event = + sdev

原因: IT Media または CT Media の API エラーです。

処置: ディスク領域を確認し、システムをリブートしてください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因: CT サーバーが停止している可能性があります。

処置: CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Poorly formatted integer parameter: + value

原因: 整形式の XML 文字列に、整数として解析できない整数パラメータ値があります。

処置: ログを調べて問題の原因である XML 文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Parse exception: + errorStream.toString()

原因: ローカライズされたメッセージ記述文字列の形式が正しくありません。

処置: ログを調べて不正な文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Unexpected SAXException: + errorStream.toString()

原因: 予期しないエラーです。

処置: ログを調べて解析中の XML 文字列を突き止め、正しい形式の XML 文字列にしてください。

Error: Oracle Internet Directory is down and installation may be + multi-instance.

Aborting call

原因: Oracle Internet Directory が停止しており、この環境のデフォルト・ドメインが設定されていません。

処置: このインストールに複数のドメインが含まれている場合は、処置を行いません。単一ドメインのインストールの場合は、Oracle Internet Directory のデフォルト・ドメイン・パラメータがこの単一ドメインの名前になるように設定してください。

Error: User does not have VM access.

原因: 電話をしてきたユーザーは、ボイスメールを利用できません。

処置: このユーザーがボイスメールを利用できるようにする場合は、Oracle Internet Directory で、このユーザーのボイスメール・アクセスを有効にしてください。

Error: Fax tone detected - this is a fax call.

原因: FAX コールを受信しました。

処置: ありません。

Error: Error obtaining user's phone number

原因: 返信または転送されたメッセージでは、送信者のテキスト名が数字で表されていますが、これはシステム内のユーザーの電話番号ではありません。この送信者はシステムから削除されたか、Oracle Internet Directory で定義されている全体が数字からなるテキスト名を持つ可能性があります。

処置: ありません。

Error: FaxReceivingAsi is null - cannot release to FaxReceivingMediaApp!

原因: FAX プロセス・インスタンスのオブジェクトが参照する、このプロセス・インスタンスの Oracle Internet Directory オブジェクトで、ASI が設定されていません。

処置: 該当する FAX プロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで、ASI が設定されていることを確認してください。

Error: Recorder stopped for unknown reason: qual is null

原因: CT Media または IT Media の API エラーです。

処置: ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Error: RTC trigger is null in msg recording

原因: CT Media または IT Media の API エラーです。

処置: ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Error: Unknown RTC trigger: + trigger

原因: CT Media または IT Media の API エラーが発生したか、CT Media のアプリケーション・プロファイルで追加の RTC が定義されています。

処置: ディスク領域を確認し、必要に応じてアプリケーションを修正してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Error: Error looking up user's Transfer Extension! Cannot release to Transfer application

原因: ユーザーの転送番号が Oracle Internet Directory 内に見つかりません。

処置: Oracle Internet Directory にある、ユーザーのいずれかの親グループ・プロファイルの下で、転送番号が設定されていることを確認してください。

Error: User's phone number is null

原因: VPIM ユーザーの電話番号フィールドが設定されていません。

処置: 電話番号を VPIM ユーザーの電話番号に設定してください。

Error: User's phone number is too long: + phoneNumber

原因: ユーザーの電話番号が長すぎるため再生できません。

処置: ユーザーの電話番号を短くしてください。再生可能な長さは、すべての電話番号に対応できるように設定されています。

Internal Error: Unknown exception caught in + thisClassName +.run()

原因: 不明なエラーです。

処置: 問題が解決されない場合は、システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Reinitialization failed

原因: 不明なエラーの発生後にアプリケーションを再初期化しようとして失敗しました。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closing

原因： 不明なエラーが発生した後で再初期化に失敗したため、このアプリケーション・スレッドが停止しています。

処置： システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closed

原因： アプリケーションがスレッド固有のクリーン・アップを試みましたが、不明なエラーが発生した後で初期化に失敗したため、停止しています。

処置： システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Message file + messageFile + does not exist

原因： アプリケーション・エラー状態が発生しました。

処置： マシンを再起動し、ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Internal Error: Needed parameter settings are missing

原因： プロセスの起動に必要な、Oracle Internet Directory のプロセスまたはインスタンスの設定が不明です。

処置： アプリケーションに必要な、Oracle Internet Directory のすべてのプロパティが、該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで設定されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected exception

原因： IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置： IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: Item handler does not exist for + itemTriggered.getName() + in + menuName

原因： 内部アプリケーション・コーディングのエラーです。

処置： メニュー項目バインディング構成文字列を編集し、ハンドラが不明なメニュー項目を無効にしてください。

Internal Error: Unexpected MediaBindException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因： コールを中継アプリケーションにリリースする際に問題が発生しました。中継アプリケーションが実行されていないか、十分なスレッドが実行されていません。

処置： 中継アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected MediaConfigException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因: コールを中継アプリケーションに渡すためのグループの再構成で問題が発生しました。UMMediaServicesProfile プロファイルが正しく構成されていません。

処置: UMMediaServicesProfile を確認してください。

Internal Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因: IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置: IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: I/O Exception should not ever happen here

原因: 起こりえないエラーです。

処置: 問題をレポートしてください。

Internal Error: Unexpected MediaBindException when releasing to service + faxReceivingAsi

原因: コールを FAX アプリケーションに委任する際に問題が発生しました。FAX アプリケーションが実行されていないか、十分なスレッドが実行されていません。

処置: FAX アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: RuntimeException received

原因: 不明なエラー状態が発生しました。

処置: 問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Internal Error: Unexpected MediaBindException

原因: CT サーバーが異常です。

処置: ディスク領域を確認し、CT サーバーをリブートしてください。

Internal Error: No destination address has been specified. Message in + recordingFile + will not be sent.

原因: ユーザーがメッセージの受信者を指定していません。

処置: ありません。

Internal Error: Recorded message file does not exist

原因: 予期しないエラー状態が発生したか、CT サーバーが異常です。

処置: ディスク領域を確認し、CT サーバーをリブートしてください。

Internal Error: Container Exception while retrieving the header parameter on the message. Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因： データベースとの通信エラー、あるいは転送中または返信中のメッセージの同時削除が発生しました。

処置： データベース接続を確認してください。

Internal Error: Unknown exception caught in + thisClassName +.run()

原因： 不明なエラーです。

処置： 問題が解決されない場合は、システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Reinitialization failed: + e2

原因： 不明なエラーの発生後にアプリケーションを再初期化しようとして失敗しました。

処置： システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closing

原因： 不明なエラーが発生した後で再初期化に失敗したため、このアプリケーション・スレッドが停止しています。

処置： システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closed

原因： アプリケーションがスレッド固有のクリーン・アップを試みましたが、不明なエラーが発生した後で初期化に失敗したため、停止しています。

処置： システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Message file + messageFile + does not exist

原因： アプリケーション・エラー状態が発生しました。

処置： マシンを再起動し、ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Internal Error: Needed parameter settings are missing

原因： プロセスの起動に必要な、Oracle Internet Directory のプロセスまたはインスタンスの設定が不明です。

処置： アプリケーションに必要な、Oracle Internet Directory のすべてのプロパティが、該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで設定されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected exception

原因： IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置： IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: Item handler does not exist for + itemTriggered.getName() + in + menuName

原因: 内部アプリケーション・コーディングのエラーです。

処置: メニュー項目バインディング構成文字列を編集し、ハンドラが不明なメニュー項目を無効にしてください。

Internal Error: Unexpected MediaBindException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因: コールを中継アプリケーションにリリースする際に問題が発生しました。中継アプリケーションが実行されていないか、十分なスレッドが実行されていません。

処置: 中継アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected MediaConfigException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因: コールを中継アプリケーションに渡すためのグループの再構成で問題が発生しました。UMMediaServicesProfile が正しく構成されていない可能性があります。

処置: UMMediaServicesProfile を確認してください。

Internal Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因: IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置: IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: I/O Exception shouldn't ever happen here

原因: 起こりえないエラーです。

処置: 問題をレポートしてください。

Internal Error: RuntimeException received

原因: 予期しないアプリケーション状態です。

処置: ディスク領域、ネットワーク接続およびアクセス権を確認してください。

Internal Error: Container Exception encountered in the finally clause: + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因: 通信の接続が切断されてから、データベースが停止したか、ディスク領域またはその他のエラーが発生しました。

処置: ディスク領域を確認し、データベースが通信可能かどうか確認してください。

Internal Error: Container Exception encountered while destroying the container: + mailbox + Exception Details: This is the exception + cex1.toString() + This is the event + ev1.toString();

原因： データベースが停止しているか、その他のエラーが発生しました。

処置： データベースが通信可能かどうか確認してください。

Internal Error: Media Bind Exception while doing a delegateToService() to VMRecordingMediaApp. Exception Details: This is the exception + mbe.toString();

原因： 検索アプリケーションで作成された返信メッセージ、転送メッセージまたは新規メッセージを録音アプリケーションに委任する際に、エラーが発生しました。

処置： 録音アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: Container Exception while setting the unread parameter on the message. + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString();

原因： メッセージに未読フラグを設定する際に、データベース通信またはディスク領域の問題が発生しました。

処置： データベースがアクセス可能で、十分なディスク領域があることを確認してください。

Internal Error: Container Exception while deleting message. + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因： メッセージの削除中に、データベース通信またはディスク領域の問題が発生しました。

処置： データベースがアクセス可能で、十分なディスク領域があることを確認してください。

Internal Error: Container Exception while retrieving the header parameter on the message. Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因： メッセージ・ヘッダー情報の取得中に、データベース通信またはディスク領域の問題が発生しました。

処置： データベースがアクセス可能で、十分なディスク領域があることを確認してください。

Internal Error: Container Exception while destroying the container: + tmpGreetingPath + Exception Details: This is the exception + ce.toString() + This is the event + ev1.toString()

原因: CT Media のコンテナ・サブシステムにあるデータ・オブジェクトが外部から削除されたか、内部 CT Media エラーが発生しました。

処置: ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、CT Media を再インストールしてください。

Internal Error: Container Exception while creating the SpokenName data object. + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因: ディスク領域または内部 CT Media のエラーです。

処置: ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、CT Media を再インストールしてください。

Internal Error: Container exception while retrieving the header parameter on the message. + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因: メッセージ・ヘッダー情報の取得中に、データベース通信またはディスク領域の問題が発生しました。

処置: データベースがアクセス可能で、十分なディスク領域があることを確認してください。

Internal Error: Container exception in greeting recording

原因: 録音直後の応答メッセージまたは名前にアクセスしようとして、エラーが発生しました。応答メッセージまたは名前が削除されたか、ディスク領域に問題がある可能性があります。あるいは別の CT Media エラーです。

処置: ディスク領域を確認してください。問題が解決されない場合は、サーバーをリブートしてください。

Internal Error: Naming exception in greeting recording:

原因: 録音直後の応答メッセージまたは名前を Oracle Internet Directory に格納しようとして、エラーが発生しました。

処置: Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

ボイスメール検索プロセス

Error: Unable to establish Oracle Internet Directory connection

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Cannot communicate with Oracle Internet Directory

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory while trying to lookup the user - Retrying

原因： Oracle Internet Directory が停止しているか、アクセス不可です。

処置： ありません。アプリケーションが自動的に接続を再試行します。

Error: Naming Exception encountered while trying to lookup the user

原因： Oracle Voicemail & Fax が、Oracle Internet Directory エントリを持たないユーザー、または不正な Oracle Internet Directory エントリを持つユーザーへのコールに応答していません。

処置： このユーザーがシステム上に存在する場合は、ユーザーの VPIM ユーザー・オブジェクトの VPIM メール・アドレスが正しいことを確認してください。このユーザーがシステム上に存在しない場合は、このユーザーへのコールを Oracle Voicemail & Fax に転送しないように、PBX を構成してください。

Error: No queueing location defined in Oracle Internet Directory

原因： アプリケーションがメッセージのキューを試みていますが、メッセージ・キューの位置が Oracle Internet Directory で定義されていません。

処置： Oracle Internet Directory の該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで、メッセージ・キューの位置を設定してください。

Error: Unexpected I/O error

原因： メッセージをリカバリ・キューに出力する際にエラーが発生しました。

処置： キュー・ディレクトリのディスク領域および権限を確認してください。

Error: Cannot send message: queueing

原因： メール・ストア・データベースが停止中またはアクセス不可であるか、メッセージの送信に別の問題があります。

処置： リカバリ・アプリケーションが実行されていることを確認してください。データベースが再びアクセス可能になると、このアプリケーションによってメッセージが送信されます。データベースを確認してください。

Error: Error retrieving coder type from Oracle Internet Directory

原因: Oracle Internet Directory のユーザー・オブジェクトまたは応答メッセージ・オブジェクトに格納されているコード・タイプの形式が不正です。変更された可能性があります。

処置: コード・タイプの形式を修正し、デフォルトのコード・タイプが有効なタイプになるようにしてください。

Error: Fatal error: Can't create prompt table

原因: デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列の形式が不完全です。

処置: ローカライズ・メッセージ記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Can't create menu table

原因: デフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の形式が不完全です。

処置: メニュー項目バインディング記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Unexpected naming exception

原因: Oracle Internet Directory のインストール・コンテナの直接の子として Oracle Internet Directory に存在する、デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列またはデフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の検索中に、Oracle Internet Directory エラーが発生しました。両方のオブジェクトのデフォルト属性は、True に設定する必要があります。

Error: Unexpected exception

原因: CT サーバーが停止している可能性があります。

処置: CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Error refreshing

原因: リフレッシュするプロセス・インスタンスの現行の構成が無効です。プロセス・インスタンスが最後に起動してから行われた設定が正しくありません。

処置: Oracle Internet Directory のプロセス・インスタンスの設定を修正してください。

Error: Error in retrieving the signal. Current value = + signals + Event = + sdev

原因: IT Media または CT Media の API エラーです。

処置: ディスク領域を確認し、システムをリブートしてください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Error: No AttendantAsi defined! Cannot release to AttendantMediaApp

原因： 転送アプリケーションの ASI が、このプロセス・インスタンスの Oracle Internet Directory 構成が指す Oracle Internet Directory の転送オブジェクトで定義されていません。

処置： 該当する Oracle Internet Directory オブジェクトで、転送 ASI を定義してください。

Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因： CT サーバーが停止している可能性があります。

処置： CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Poorly formatted integer parameter: + value

原因： 整形式の XML 文字列に、整数として解析できない整数パラメータ値があります。

処置： ログを調べて問題の原因である XML 文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Parse exception: + errorMessage.toString()

原因： ローカライズされたメッセージ記述文字列の形式が正しくありません。

処置： ログを調べて不正な文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Unexpected SAX Exception: + errorMessage.toString()

原因： 予期しないエラーです。

処置： ログを調べて解析中の XML 文字列を突き止め、正しい形式の XML 文字列にしてください。

Error: Setting the startSearchMessageUid value in Oracle Internet Directory to = +messageUid.toString() + failed!

原因： Oracle Internet Directory との通信エラーです。これは致命的なエラーではありませんが、より重大な Oracle Internet Directory 通信の問題を示している可能性があります。

処置： もう一度同じ操作を行って、この状態が繰り返されるかどうか確認してください。Oracle Internet Directory サーバーが停止していないか確認してください。

Error: Setting the oldestVoiceMessageUid value in Oracle Internet Directory to = +oldestVMUId.toString() + failed!

原因： Oracle Internet Directory との通信エラーです。これは致命的なエラーではありませんが、より重大な Oracle Internet Directory 通信の問題を示している可能性があります。

処置： もう一度同じ操作を行って、この状態が繰り返されるかどうか確認してください。Oracle Internet Directory サーバーが停止していないか確認してください。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory when trying to lookup user - Retrying

原因: Oracle Internet Directory との接続が失われました。

処置: ありません。アプリケーションが自動的に、各コールの最初に接続を再試行します。

Error: Invalid MailBox Number - Null

原因: メールボックス番号の入力を求められたのに対して、ユーザーがシャープキー (#) しか押していません。

処置: ありません。

Error: Exception caught - Details: + ex.toString() + Event details - + sdev.toString()

原因: サード・パーティのバグがトリガーされたため、回避方法を試んでいます。

処置: ありません。

Error: Exception caught - Details: + stex

原因: サード・パーティのバグがトリガーされたため、回避方法を試んでいます。

処置: ありません。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory when trying to lookup the user - Retrying

原因: Oracle Internet Directory の接続が失われました。

処置: ありません。アプリケーションが自動的に、各コールの最初に接続を再試行します。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory when trying to lookup the user - Retrying

原因: Oracle Internet Directory の接続が失われました。

処置: ありません。アプリケーションが自動的に、各コールの最初に接続を再試行します。

Error: Invalid MailBox Password - Null

原因: パスワードを求められたのに対して、ユーザーがシャープキー (#) しか押していません。

処置: ありません。

Error: NamingException - Unable to retrieve e-mail ID for VPIM user. + Exception Details: Exception = + ex.toString();

原因: ユーザーの検索中に Oracle Internet Directory エラーが発生しました。

処置: ユーザーの Oracle Internet Directory の設定を確認してください。

Error: Null value returned when querying Oracle Internet Directory for the owner of orclUMUser. Cannot proceed further

原因： Oracle Voicemail & Fax ユーザー・オブジェクトの所有者フィールドが設定されていません。

処置： Oracle Voicemail & Fax ユーザー・オブジェクトの所有者フィールドを、メール・ユーザーを指すように設定してください。

Error: Null value returned when querying Oracle Internet Directory for the mailUser object whose dn = + mailUserDn +. Cannot proceed further.

原因： Oracle Voicemail & Fax ユーザー・オブジェクトの所有者フィールドが、Oracle Internet Directory サーバーに存在しない DN に設定されています。

処置： Oracle Voicemail & Fax ユーザー・オブジェクトの所有者フィールドを修正してください。

Error: Null value returned when querying Oracle Internet Directory for the mail user's (dn = + mailUserDn +) orclmailStore attribute. Cannot proceed further.

原因： メール・ユーザーの orclMailStore 属性が設定されていません。

処置： メール・ユーザーの orclMailStore 属性を設定してください。

Error: Null value returned when querying Oracle Internet Directory for the mail user's (dn = + mailUserDn +) targetdn attribute. Cannot proceed further.

原因： メール・ユーザーの targetdn 属性が設定されていないか、正しく設定されていません。

処置： メール・ユーザーの該当するパブリック・ユーザーを指すように、targetdn を修正してください。

Error: Null value returned when querying Oracle Internet Directory for the mailStores object (dn = + mailStoreDn +). Cannot proceed further.

原因： メール・ユーザーの orclMailStore 属性が、Oracle Internet Directory サーバーに存在しない DN に設定されています。

処置： メール・ユーザーの orclMailStore 属性を修正してください。

Error: Null value returned when querying Oracle Internet Directory for the mailStores object's (dn = + mailStoreDn +) orclbdbdistinguishedname attribute. Cannot proceed further.

原因： メール・ストアの orclbdbdistinguishedname 属性が設定されていません。

処置： メール・ストアの orclbdbdistinguishedname 属性を設定してください。

Error: Null value returned when querying Oracle Internet Directory for the DBService object (dn = + dbStoreDn +). Cannot proceed further.

原因: メール・ストアの orclbdbistinguishedname 属性が、Oracle Internet Directory サーバーに存在しない DN に設定されています。

処置: メール・ストア・オブジェクトの orclbdbistinguishedname 属性を修正してください。

Error: Null value returned when querying Oracle Internet Directory for the DBService object's (dn = + dbStoreDn +) orclbdbglobalname attribute. Cannot proceed further.

原因: DBService orclbdbglobalname 属性が、Oracle Internet Directory で設定されていません。

処置: DBService orclbdbglobalname 属性を設定してください。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory while retrieving the mail ID of the VPIMUser - Retrying

原因: Oracle Internet Directory の接続が失われました。

処置: ありません。アプリケーションが自動的に、各コールの最初に接続を再試行します。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory while retrieving the mail ID of the VPIMUser - Retrying

原因: Oracle Internet Directory の接続が失われました。

処置: ありません。アプリケーションが自動的に、各コールの最初に接続を再試行します。

Error: Null value for VPIMMail ID specified in Oracle Internet Directory. Cannot proceed further

原因: VPIM メール・ユーザーのオブジェクトに、vpimmail ID が設定されていません。この属性はスキーマで必要とされるため、重大な Oracle Internet Directory の異常が発生しました。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Error: Invalid vpimmail id - + mailbox + - specified in Oracle Internet Directory. Cannot proceed further

原因: コール中に、VPIM メール・ユーザーの vpimmail ID が変更されました。Oracle Internet Directory の異常と考えられます。

処置: オラクル社カスタマ・サポート・センターに連絡してください。

Error: Container Exception. Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因: ユーザーの認証で不明なエラーが発生しました。データベースが停止している可能性があります。

処置: データベースの状態を確認してください。

Error: E-mail account specified in Oracle Internet Directory: + hotelman +: does not exist on the e-mail server. Cannot proceed further. + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString();

原因: 電子メール・サーバーにユーザーのアカウントが設定されていません。

処置: 電子メール・サーバーおよび Oracle Internet Directory で、ユーザーのアカウントを正しく設定してください。

Error: Msgld is null. Cannot proceed further with the delegation to Recording.

原因: 作成中の返信または転送の元になるメッセージに、メッセージ ID がありません。

処置: ありません。

Error: Mailbox is null. Cannot proceed further with the delegation to Recording.

原因: 転送または返信されるメッセージのメッセージ・ヘッダー内で、項目を検出できません。

処置: ありません。

Error: Container Exception while setting the OCIPassword parameter on the mailbox: + mailbox + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString();

原因: パスワードの変更中に不明なエラーが発生しました。

処置: ありません。

Error: Error looking up user's Transfer Extension! Cannot release to AttendantMediaApp

原因: ユーザーの転送番号が Oracle Internet Directory 内に見つかりません。

処置: Oracle Internet Directory にある、Oracle Voicemail & Fax ユーザーのいずれかの親グループ・プロファイルの下で、転送番号が設定されていることを確認してください。

Error: Error retrieving the user's telephone number., ne

原因: ユーザーの VPIM ユーザー・オブジェクトが見つかりません。Oracle Internet Directory の通信エラーが発生したか、ユーザー・オブジェクトの所有者の属性が正しく設定されていない可能性があります。

処置: ユーザーの所有者オブジェクトが、メール・ユーザーまたは VPIM ユーザーの DN に設定されていることを確認してください。Oracle Internet Directory が使用可能であることを確認してください。

Error: Cannot look up VPIM user

原因: ユーザーの VPIM ユーザー・オブジェクトが見つかりません。Oracle Internet Directory の通信エラーが発生したか、ユーザー・オブジェクトの所有者の属性が正しく設定されていない可能性があります。

処置: ユーザーの所有者オブジェクトが、メール・ユーザーまたは VPIM ユーザーの DN に設定されていることを確認してください。Oracle Internet Directory が使用可能であることを確認してください。

Internal Error: Unknown exception caught in + thisClassName +.run()

原因: 不明なエラーです。

処置: 問題が解決されない場合は、システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Reinitialization failed: + e2

原因: 不明なエラーの発生後にアプリケーションを再初期化しようとして失敗しました。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closing

原因: 不明なエラーが発生した後で再初期化に失敗したため、このアプリケーション・スレッドが停止しています。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closed

原因: アプリケーションがスレッド固有のクリーン・アップを試みましたが、不明なエラーが発生した後で初期化に失敗したため、停止しています。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Message file + messageFile + does not exist

原因: アプリケーション・エラー状態が発生しました。

処置: マシンを再起動し、ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Internal Error: Needed parameter settings are missing

原因: プロセスの起動に必要な、Oracle Internet Directory のプロセスまたはインスタンスの設定が不明です。

処置: アプリケーションに必要な、Oracle Internet Directory のすべてのプロパティが、該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで設定されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected exception

原因: IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置: IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: Item handler does not exist for + itemTriggered.getName() + in + menuName

原因： 内部アプリケーション・コーディングのエラーです。

処置： メニュー項目バインディング構成文字列を編集し、ハンドラが不明なメニュー項目を無効にしてください。

Internal Error: Unexpected MediaBindException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因： コールを中継アプリケーションにリリースする際に問題が発生しました。中継アプリケーションが実行されていないか、十分なスレッドが実行されていません。

処置： 中継アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected MediaConfigException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因： コールを中継アプリケーションに渡すためのグループの再構成で問題が発生しました。UMMediaServicesProfile が正しく構成されていない可能性があります。

処置： UMMediaServicesProfile を確認してください。

Internal Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因： IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置： IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: RuntimeException received

原因： 予期しないアプリケーション状態です。

処置： ディスク領域、ネットワーク接続およびアクセス権を確認してください。

Internal Error: Container Exception encountered in the finally clause: + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因： 通信の接続が切断されてから、データベースが停止したか、ディスク領域またはその他のエラーが発生しました。

処置： ディスク領域を確認し、データベースが通信可能かどうか確認してください。

Internal Error: Container Exception encountered while destroying the container: + mailbox + Exception Details: This is the exception + cex1.toString() + This is the event + ev1.toString();

原因： データベースが停止しているか、その他のエラーが発生しました。

処置： データベースが通信可能かどうか確認してください。

Internal Error: Media Bind Exception while doing a delegateToService() to VMRecordingMediaApp. Exception Details: This is the exception + mbe.toString();

原因： 検索アプリケーションで作成された返信メッセージ、転送メッセージまたは新規メッセージを録音アプリケーションに委任する際に、エラーが発生しました。

処置： 録音アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: Container Exception while deleting message. + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因： メッセージの削除中に、データベース通信またはディスク領域の問題が発生しました。

処置： データベースがアクセス可能で、十分なディスク領域があることを確認してください。

Internal Error: Container Exception while retrieving the header parameter on the message. Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因： メッセージ・ヘッダー情報の取得中に、データベース通信またはディスク領域の問題が発生しました。

処置： データベースがアクセス可能で、十分なディスク領域があることを確認してください。

Internal Error: Container Exception while destroying the container: + tmpGreetingPath + Exception Details: This is the exception + ce.toString() + This is the event + ev1.toString()

原因： CT Media のコンテナ・サブシステムにあるデータ・オブジェクトが外部から削除されたか、内部 CT Media エラーが発生しました。

処置： ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、CT Media を再インストールしてください。

Internal Error: Container Exception while creating the SpokenName data object. + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因： ディスク領域または内部 CT Media のエラーです。

処置： ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、CT Media を再インストールしてください。

Internal Error: Container exception while retrieving the header parameter on the message. + Exception Details: This is the exception + cex.toString() + This is the event + ev.toString()

原因： メッセージ・ヘッダー情報の取得中に、データベース通信またはディスク領域の問題が発生しました。

処置： データベースがアクセス可能で、十分なディスク領域があることを確認してください。

Internal Error: Container exception in greeting recording

原因： 録音直後の応答メッセージまたは名前にアクセスしようとして、エラーが発生しました。応答メッセージまたは名前が削除されたか、ディスク領域に問題がある可能性があります。あるいは別の CT Media エラーです。

処置： ディスク領域を確認してください。問題が解決されない場合は、サーバーをリブートしてください。

Internal Error: Naming exception in greeting recording:

原因： 録音直後の応答メッセージまたは名前を Oracle Internet Directory に格納しようとして、エラーが発生しました。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

転送プロセス

Error: Unable to establish Oracle Internet Directory connection

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Can't communicate with Oracle Internet Directory

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory while trying to lookup user - Retrying

原因： Oracle Internet Directory が停止しているか、アクセス不可です。

処置： ありません。アプリケーションが自動的に接続を再試行します。

Error: Naming exception encountered while trying to lookup user

原因: Oracle Voicemail & Fax が、Oracle Internet Directory エントリを持たないユーザー、または不正な Oracle Internet Directory エントリを持つユーザーへのコールに応答しています。

処置: このユーザーがシステム上に存在する場合は、ユーザーの VPIM ユーザー・オブジェクトの VPIM メール・アドレスが正しいことを確認してください。このユーザーがシステム上に存在しない場合は、このユーザーへのコールを Oracle Voicemail & Fax に転送しないように、PBX を構成してください。

Error: No queueing location defined in Oracle Internet Directory

原因: アプリケーションがメッセージのキューを試みっていますが、メッセージ・キューの位置が Oracle Internet Directory で定義されていません。

処置: Oracle Internet Directory の該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで、メッセージ・キューの位置を設定してください。

Error: Unexpected I/O error

原因: メッセージをリカバリ・キューに出力する際にエラーが発生しました。

処置: キュー・ディレクトリのディスク領域および権限を確認してください。

Error: Cannot send message: queueing

原因: メール・ストア・データベースが停止中またはアクセス不可であるか、メッセージの送信に別の問題があります。

処置: リカバリ・アプリケーションが実行されていることを確認してください。データベースが再びアクセス可能になると、このアプリケーションによってメッセージが送信されます。データベースを確認してください。

Error: Error retrieving coder type from Oracle Internet Directory

原因: Oracle Internet Directory のユーザー・オブジェクトまたは応答メッセージ・オブジェクトに格納されているコード・タイプの形式が不正です。変更された可能性があります。

処置: コード・タイプの形式を修正し、デフォルトのコード・タイプが有効なタイプになるようにしてください。

Error: Fatal error: Cannot create prompt table

原因: デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列の形式が不完全です。

処置: ローカライズ・メッセージ記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Cannot create menu table

原因： デフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の形式が不完全です。

処置： メニュー項目バインディング記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Unexpected naming exception

原因： デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列、またはデフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の検索中に、Oracle Internet Directory エラーが発生しました。

処置： デフォルト・メニュー・オブジェクトおよびデフォルト・プロンプト・オブジェクトが、Oracle Internet Directory に存在することを確認してください。Oracle Internet Directory に、インストール・コンテナの直接の子が存在する必要があります。両方のオブジェクトのデフォルト属性は、True に設定する必要があります。

Error: Unexpected exception

原因： CT サーバーが停止している可能性があります。

処置： CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Error refreshing

原因： リフレッシュするプロセス・インスタンスの現行の構成が無効です。プロセス・インスタンスが最後に起動してから行われた設定が正しくありません。

処置： Oracle Internet Directory のプロセス・インスタンスの設定を修正してください。

Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因： CT サーバーが停止している可能性があります。

処置： CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Poorly formatted integer parameter

原因： 整形式の XML 文字列に、整数として解析できない整数パラメータ値があります。

処置： ログを調べて問題の原因である XML 文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Parse exception

原因： ローカライズされたメッセージ記述文字列の形式が正しくありません。

処置： ログを調べて不正な文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Unexpected SAX Exception

原因: 予期しないエラーです。

処置: ログを調べて解析中の XML 文字列を突き止め、正しい形式の XML 文字列にしてください。

Internal Error: Unknown exception caught in + thisClassName +.run()

原因: 不明なエラーです。

処置: 問題が解決されない場合は、システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Reinitialization failed

原因: 不明なエラーの発生後にアプリケーションを再初期化しようとして失敗しました。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closing

原因: 不明なエラーが発生した後で再初期化に失敗したため、このアプリケーション・スレッドが停止しています。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closed

原因: アプリケーションがスレッド固有のクリーン・アップを試みましたが、不明なエラーが発生した後で初期化に失敗したため、停止しています。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Message file + messageFile + does not exist

原因: アプリケーション・エラー状態が発生しました。

処置: マシンを再起動し、ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Internal Error: Needed parameter settings are missing

原因: プロセスの起動に必要な、Oracle Internet Directory のプロセスまたはインスタンスの設定が不明です。

処置: アプリケーションに必要な、Oracle Internet Directory のすべてのプロパティが、該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで設定されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected exception

原因: IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置: IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected exception trying to initialize MediaPlayer

原因： IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置： IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: I/O Exception should not ever happen here

原因： 起こりえないエラーです。

処置： 問題をレポートしてください。

FAX 受信プロセス

Error: Unable to establish Oracle Internet Directory connection

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Can't communicate with Oracle Internet Directory

原因： Oracle Internet Directory サーバーにアクセスできません。

処置： Oracle Internet Directory サーバーがアクセス可能であることを確認してください。

Error: Lost connection with Oracle Internet Directory while trying to lookup user - Retrying

原因： Oracle Internet Directory が停止しているか、アクセス不可です。

処置： ありません。アプリケーションが自動的に接続を再試行します。

Error: a naming exception was encountered while trying to lookup user

原因： Unified Messaging が、Oracle Internet Directory エントリを持たないユーザー、または不正な Oracle Internet Directory エントリを持つユーザーへのコールに応答しています。

処置： このユーザーがシステム上に存在する場合は、ユーザーの VPIM ユーザー・オブジェクトの VPIM メール・アドレスが正しいことを確認してください。このユーザーがシステム上に存在しない場合は、このユーザーへのコールを Oracle Voicemail & Fax に転送しないように、PBX を構成してください。

Error: No queueing location defined in Oracle Internet Directory

原因： アプリケーションがメッセージのキューを試みっていますが、メッセージ・キューの位置が Oracle Internet Directory で定義されていません。

処置： 該当するプロセスで、メッセージ・キューの位置を設定してください。

Error: Unexpected I/O error

原因： メッセージをリカバリ・キューに出力する際にエラーが発生しました。

処置： キュー・ディレクトリのディスク領域および権限を確認してください。

Error: Cannot send message: queueing

原因: メール・ストア・データベースが停止中またはアクセス不可であるか、メッセージの送信に別の問題があります。

処置: リカバリ・アプリケーションが実行されていることを確認してください。データベースが再びアクセス可能になると、このアプリケーションによってメッセージが送信されます。データベースを確認してください。

Error: Error retrieving coder type from Oracle Internet Directory

原因: Oracle Internet Directory のユーザーまたは応答メッセージに格納されているコード・タイプです。このオブジェクトの形式が不正です。変更された可能性があります。

処置: コード・タイプの形式を修正し、デフォルトのコード・タイプが有効なタイプになるようにしてください。

Error: Fatal error: Can't create prompt table

原因: デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列の形式が不完全です。

処置: ローカライズ・メッセージ記述文字列を修正してください。

Error: Fatal error: Cannot create menu table

原因: デフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の形式が正しくありません。

処置: メニュー項目バインディング記述文字列を修正してください。

Fatal Error: Unexpected NamingException

原因: デフォルト・インストールのローカライズ・メッセージ記述文字列、またはデフォルト・インストールのメニュー項目バインディング記述文字列の検索中に、Oracle Internet Directory エラーが発生しました。

処置: デフォルト・メニュー・オブジェクトおよびデフォルト・プロンプト・オブジェクトが、Oracle Internet Directory にあるインストール・コンテナの直接の子として Oracle Internet Directory に存在することを確認してください。両方のオブジェクトのデフォルト属性は、True に設定する必要があります。

Error: Unexpected exception

原因: CT サーバーが停止している可能性があります。

処置: CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Error refreshing

原因: リフレッシュするプロセス・インスタンスの現行の構成が無効です。プロセス・インスタンスが最後に起動してから行われた設定が正しくありません。

処置: Oracle Internet Directory のプロセス・インスタンスの設定を修正してください。

Error: Error in retrieving the signal. Current value = + signals + Event = + sdev

原因: IT Media または CT Media の API エラーです。

処置: ディスク領域を確認し、システムをリブートしてください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Error: No AttendantAsi defined! Cannot release to AttendantMediaApp

原因: 転送アプリケーションの ASI が、転送 Oracle Internet Directory オブジェクトで定義されていません。

処置: 該当する Oracle Internet Directory オブジェクトで、転送 ASI を定義してください。

Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因: CT サーバーが停止している可能性があります。

処置: CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Poorly formatted integer parameter: + value

原因: 整形式の XML 文字列に、整数として解析できない整数パラメータ値があります。

処置: ログを調べて問題の原因である XML 文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Parse exception: + errorStream.toString()

原因: ローカライズされたメッセージ記述文字列の形式が正しくありません。

処置: ログを調べて不正な文字列を突き止め、その文字列を修正してください。

Error: Unexpected SAXException: + errorStream.toString()

原因: 予期しないエラーです。

処置: ログを調べて解析中の XML 文字列を突き止め、正しい形式の XML 文字列にしてください。

Error: Cannot process this call further - No call detail information or the cd.to field is null!

原因: コールの詳細情報を入手できません。

処置: SMDI モニターが存在する場合は SMDI モニターが実行されていることを確認し、Oracle Internet Directory の PBX 統合設定が正しいことを確認してください。

Error: Oracle Internet Directory is down and installation may be + multi-domain aborting call

原因: Oracle Internet Directory が停止しており、この環境のデフォルト・ドメインが設定されていません。

処置: このインストールに複数のドメインが含まれている場合は、処置を行いません。単一ドメインのインストールの場合は、Oracle Internet Directory のデフォルト・ドメイン・パラメータがこの単一ドメインの名前になるように設定してください。

Error: User does not have FaxIn access

原因: FAX の送信先であるユーザーの FAX 受信アクセスが無効になっています。

処置: このユーザーの FAX 受信アクセスを有効にする必要がある場合は、アクセスを有効にします。

Error: Fax receiver stopped for unknown reason: qual is null

原因: CT Media または IT Media の API エラーです。

処置: ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Internal Error: Unknown exception caught in + thisClassName +.run()

原因: 不明なエラーです。

処置: 問題が解決されない場合は、システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Reinitialization failed: + e2

原因: 不明なエラーの発生後にアプリケーションを再初期化しようとして失敗しました。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closing

原因: 不明なエラーが発生した後で再初期化に失敗したため、このアプリケーション・スレッドが停止しています。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: thisClassName +: closed

原因: アプリケーションがスレッド固有のクリーン・アップを試みましたが、不明なエラーが発生した後で初期化に失敗したため、停止しています。

処置: システムをリブートして問題をレポートしてください。

Internal Error: Message file + messageFile + does not exist

原因: アプリケーション・エラー状態が発生しました。

処置: マシンを再起動し、ディスク領域を確認してください。それでも問題が解決されない場合は、この問題をレポートしてください。

Internal Error: Needed parameter settings are missing.

原因： プロセスの起動に必要な、Oracle Internet Directory のプロセスまたはインスタンスの設定が不明です。

処置： アプリケーションに必要な、Oracle Internet Directory のすべてのプロパティが、該当するプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで設定されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected exception

原因： IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置： IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: Item handler does not exist for + itemTriggered.getName() + in + menuName

原因： 内部アプリケーション・コーディングのエラーです。

処置： メニュー項目バインディング構成文字列を編集し、ハンドラが不明なメニュー項目を無効にしてください。

Internal Error: Unexpected MediaBindException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因： コールを中継アプリケーションにリリースする際に問題が発生しました。中継アプリケーションが実行されていないか、十分なスレッドが実行されていません。

処置： 中継アプリケーションが実行されていることを確認してください。

Internal Error: Unexpected MediaConfigException when releasing to service + requestor.getAttendantAsi()

原因： コールを中継アプリケーションに渡すためのグループの再構成で問題が発生しました。UMMediaServicesProfile が正しく構成されていない可能性があります。

処置： UMMediaServicesProfile を確認してください。

Internal Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因： IT Media および CT Media で、予期しないエラー状態が発生しました。

処置： IT Media が正しくインストールされていることを確認してください。

Internal Error: I/O Exception should not ever happen here

原因： 起こりえないエラーです。

処置： 問題をレポートしてください。

Internal Error: Fax receive was interrupted. Message in + receivingFile + will not be sent

原因: FAX の受信中にエラーが発生しました。

処置: ディスク領域を確認してください。問題が解決されない場合は、CT Media を再インストールしてください。

Internal Error: No destination address has been specified. Message in + receivingFile + will not be sent.

原因: ユーザーがメッセージの受信者を指定していません。

処置: ありません。

MWI サービス・プロセス

Error: Unexpected exception trying to initialize MediaProvider

原因: CT サーバーが停止している可能性があります。

処置: CT サーバーを確実に起動してください。サーバーが起動すると、アプリケーションがリカバリします。

Error: Class location URL is not defined. + Cannot export MWIService for activation.

原因: クラス位置の URL が、Oracle Internet Directory で設定されていません。

処置: Oracle Internet Directory でクラス位置を設定してください。

Error: An I/O error occurred while constructing MarshalledObject

原因: ディスク領域が不足しているか、必要なファイル・システム権限がありません。

処置: ディスク領域および権限を確認してください。

Error: Error connecting to PBX

原因: SMDI モニターまたは CT Media MWI のセッション・サービスを使用できません。

処置: PBX プロパティの Oracle Internet Directory の設定が正しいことを確認してください。SMDI モニターが存在する場合は、SMDI モニターが実行されていることを確認してください。MWIService が自動的に接続を再確立します。

Error: PBXConnection cannot be created

原因: PBX 接続のタイプが不明であるか、認識されていません。あるいは、SMDI モニターのホスト、ポートまたはタイムアウトのプロパティが不明です。

処置: PBX 接続に関連するすべての必須プロパティを、該当する Oracle Internet Directory のプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトで修正してください。

AQMWI プロセス

Error: Unable to register driver manager -- exiting

原因: Oracle JDBC クラスが正しくインストールされていません。

処置: Oracle JDBC クラスを再インストールしてください。

Error: Error communicating with AQ

原因: MWI の AQ が存在しないか、使用不可です。

処置: Advanced Queuing がインストールされており、使用可能であることを確認してください。

Error: Error communicating with the database

原因: データベースが使用できないか、アクセス不可です。

処置: データベースが実行されており、アクセス可能であることを確認してください。

Error: Error communicating with Oracle Internet Directory

原因: Oracle Internet Directory サーバーの通信エラーまたは認証エラーが発生しました。

処置: Oracle Internet Directory サーバーが実行されていることを確認してください。必要に応じて、認証資格証明をリセットしてください。

Error: Unexpected Exception

原因: 不明なエラーです。

処置: ありません。接続は自動的に再確立されます。

Error: Unable to reconnect

原因: 不明なエラーの後で接続を確立しようとして、エラーが発生しました。

処置: ありません。60 秒ごとに再接続が試行されます。

Error: Unexpected ClassNotFoundException

原因: クラス oracle.AQ.AQOracleDriver が見つかりません。

処置: Oracle AQ クラスがインストールされていることを確認してください。

Error: Remote exception occurred while looking up the MWIService

原因: Oracle Internet Directory で設定された RMI URL のホストおよびポート番号で、RMI レジストリが検出されませんでした。

処置: Oracle Internet Directory で設定された RMI URL のホストおよびポート番号で、rmiregistry が実行されていることを確認してください。

Error: A URL exception was not formed correctly while looking up the MWI service

原因： Oracle Internet Directory の MWI サービスのプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトの下で設定された、MWIService の URL の形式が正しくありません。

処置： MWIService の URL を修正してください。

Error: A NotBoundException occurred while looking up MWI service

原因： MWIService が、要求された URL に登録されていません。

処置： Oracle Internet Directory の MWIService のプロセス・オブジェクトまたはインスタンス・オブジェクトの下で設定された位置で、MWIService が実行されていることを確認してください。

Oracle Voicemail & Fax アクセス制御リスト

この項では、Oracle Voicemail & Fax のテレフォニ・サーバーおよびワイヤレス・サーバー・コンポーネントに対して Oracle Internet Directory で設定された、アクセス制御リスト・ポリシーの概要を説明します。これらのディレクトリ・アクセス制御リストは、インフラストラクチャのインストール・フェーズで、Oracle Internet Directory 内で設定されます。

次の項目について説明します。

- [テレフォニ・プロセスのアクセス制御リスト](#)

テレフォニ・プロセスのアクセス制御リスト

関連資料： アクセス制御リストの詳細は、『Oracle Internet Directory 管理者ガイド』を参照してください。

Oracle Voicemail & Fax LDAP のスキーマおよびエントリは、Oracle Internet Directory のインストール時にインストールされます。

製品コンテナの下に作成される UMContainer には、Oracle Voicemail & Fax ユーザーおよびインストール固有の情報が格納されます。

Oracle Voicemail & Fax のユーザー情報は、UMContainer および EmailserverContainer の両方のディレクトリ情報ツリーに分散して格納されます。両方のディレクトリ情報ツリーへのアクセス許可を行うために、EmailServerContainer および UMContainer の下に、権限グループ UAdminsGroup が作成され、適合するアクセス制御リストが適用されます。

UAdminsGroup は、UMContainer ディレクトリ情報ツリーへのアクセス用に作成される権限グループです。このグループのメンバーには、作成者、UMContainer および EMailAdminsGroup が含まれます。

EmailAdminsGroup は、UAdminsGroup より先に作成する必要があります。UAdminsGroup は、作成後に EmailAdminsGroup のメンバーになります。これにより、Oracle Voicemail & Fax アプリケーションが両方のコンテナにアクセスできるようになります。

次のアクセス制御リストは UMContainer に適用され、UMContainer および EMailContainer へのアクセスをアプリケーションに許可します。

- グループ cn=iASAdmins のアクセス制御リストである cn=Groups, %s_OracleContextDN% には、参照、追加、削除およびプロキシの権限があります。このリストは、iasadmins が UMContainer に対してプロキシ認証を使用できるようにするために必要です。
- グループ cn=UAdminsGroup のアクセス制御リストである cn=UMContainer, cn=Products, %s_OracleContextDN% には、参照、追加および削除の権限があります。
- dn=*, cn=EMailServerContainer, cn=Products, %s_OracleContextDN% のアクセス制御リストには、参照、追加、削除およびプロキシの権限があります。

注意： %s_OracleContextDN% は、ルートまたはサブスライバの OracleText になります。

UMAdminsGroup のグループ・メンバーシップ

次の表で、UMAdminsGroup のグループおよび権限について説明します。

表 A-1 UMAdminsGroup

グループ	権限
cn=ComputerAdmins cn=Groups,%s_OracleContextDN%	このグループに UMAdminsGroup を追加すると、Oracle Voicemail & Fax アプリケーションが cn=Computers の下でプロセス・エントリを作成し、これにアクセスできるようになります。
cn=UserProxyPrivilege cn=Groups,%s_OracleContextDN%	このグループに UMAdminsGroup を追加すると、Oracle Voicemail & Fax アプリケーションがエンド・ユーザーとしてプロキシ認証を使用できるようになります。

次のグループに UMAdminsGroup を追加すると、Oracle Voicemail & Fax アプリケーションが cn=Computers の下でプロセス・エントリを作成し、これにアクセスできるようになります。

cn=ComputerAdmins, cn=Groups,%s_OracleContextDN%

次のグループに UMAdminsGroup を追加すると、Oracle Voicemail & Fax アプリケーションがエンド・ユーザーとしてプロキシ認証を使用できるようになります。

cn=UserProxyPrivilege, cn=Groups,%s_OracleContextDN%

索引

A

AQMWI プロセス, 2-6

F

FAX 受信プロセス, 2-5

M

MWI サービス・プロセス, 2-7

O

Oracle9iAS Unified Messaging の概要, 1-2

あ

アクセス制御リスト
 テレフォニ, A-2

え

エラー・メッセージ, 4-1
 AQMWI プロセス, 4-38
 FAX 受信プロセス, 4-32
 MWI サービス・プロセス, 4-37
 転送プロセス, 4-28
 プロセス・マネージャ・プロセス, 4-37
 ボイスメール検索, 4-18
 ボイスメール録音プロセス, 4-7
 ルーティング・プロセス, 4-2
エラー・メッセージの概要, 4-2

か

概要, 1-2
拡張管理機能, 1-3

き

機能, 1-2

て

テレフォニ
 概要, 2-2
 テレフォニ・プロセス
 起動、停止、再初期化, 2-10, 2-11
 テレフォニ・プロセス・インスタンス
 起動, 2-11
 再初期化, 2-12
 削除, 2-9
 作成, 2-9
 停止, 2-12
 パラメータの変更, 2-12
 テレフォニ・プロセス・パラメータ
 変更, 2-10
転送プロセス, 2-5

は

パラメータ
 AQMWI プロセス, 2-43
 FAX 受信プロセス, 2-32
 MWI サービス・プロセス, 2-40
 転送プロセス, 2-28
 プロセス・マネージャ・プロセス, 2-40
 ボイスメールおよび FAX, 3-3

ボイスメール検索プロセス, 2-23
ボイスメール録音プロセス, 2-17
リカバリ・プロセス, 2-36
ルーティング・プロセス, 2-12

ひ

標準準拠電話アプリケーション, 1-3

ふ

プロセス・マネージャ・プロセス, 2-6

ほ

ボイスメール検索プロセス, 2-5
ボイスメール・ユーザーおよび FAX ユーザー
 削除, 3-5
 作成, 3-2
 変更, 3-3
ボイスメール録音プロセス, 2-3

り

リカバリ・プロセス, 2-5

る

ルーティング・プロセス, 2-3